宮崎市文化財調査報告書第109集

佐土原城跡第６次調査

佐土原中学校区公民館及び城の駅建設事業にかかる埋蔵文化財調査報告書

２０１６

宮崎市教育委員会

宮崎市文化財調査報告書第109集

佐土原城跡第６次調査

佐土原中学校区公民館及び城の駅建設事業にかかる埋蔵文化財調査報告書

２０１６

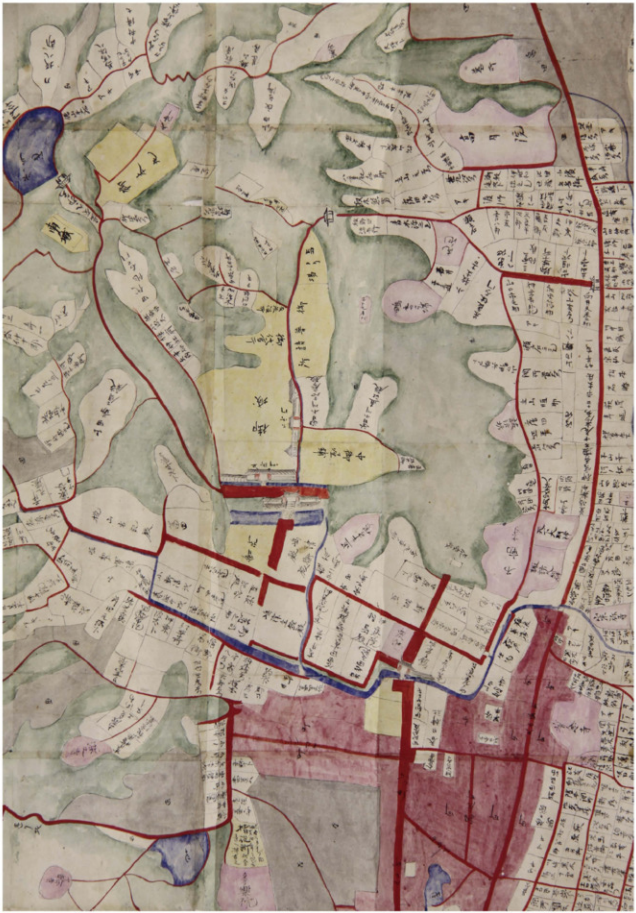
宮崎市教育委員会

佐土原城跡第 6 次調査地遠景写真

調査地垂直写真

井戸 16　桶検出状況

池状遺構 73



佐土原御城下細見之図（一部：宮崎県総合博物館所蔵）

序

本書は平成22年度から平成23年度にかけて佐土原中学校区公民館及び城の駅整備事業に伴って発掘調査が行われた佐土原城跡第6次調査の発掘調査報告書です。

今回発掘調査が行われた調査地点は『日向国佐土原城』（国立国会図書館所蔵）によると三ノ丸にあたり、幕末の佐土原城下の様子を記録している『佐土原御城下細見之図』（宮崎県総合博物館所蔵）によると、佐土原藩の寄合格である渋谷直記や騎馬格の郡司篤之助の屋敷地と考えられる場所で、両氏が生活していたと考えられる建物跡や庭園の池跡、井戸などが見つかり、また当時そこで使用されていたであろう各地の陶磁器や土製品、木製品、鉄製品なども多数出土いたしました。

そのほかにも戦国時代の溝状遺構や建物跡なども発見され、佐土原藩の城下町が整備される前の様子も確認することができました。

これらの調査成果は佐土原城下の移り変わりや佐土原藩の武士の生活だけでなく、当時の流通を解明する上でも貴重な資料となります。本書が学術資料としてだけではなく、学校教育や生涯学習などにも活用され、埋蔵文化財保護の理解につながれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査の実施に関しまして理解とご協力を賜りました地元の方々に心から感謝し御礼申し上げます。

平成28年3月

宮崎市教育委員会
教育長　二見　俊一

例　　言

1．本書は佐土原中学校区公民館及び城の駅整備事業に伴って行われた宮崎市佐土原町上田島に所在する佐土原城跡第 6 次発掘調査報告書である。

2．本業務は宮崎市企画政策課から依頼を受けて平成 22 年度から実施している。発掘調査は平成 22・23 年度で終了し、平成 24 年度から平成 27 年度にかけて整理作業が行われた。

3．調査組織は以下のとおりである。

調査主体：宮崎市教育委員会

平成 22 年度（発掘調査）

文化財課	課長	田村泰彦
総括	埋蔵文化財係長	富永英典
調整担当	主査	金丸武司
調査担当	主任技師	秋成雅博
	嘱託	今村結記
	（現鹿児島県埋蔵文化財センター）	

平成 23 年度（発掘調査）

文化財課	課長	田村泰彦
総括	埋蔵文化財係長	富永英典
調整担当	主査	鳥枝　誠
調査担当	主任技師	秋成雅博
	主任技師	石村友規
	嘱託	川野誠也
	嘱託	岸田優子
	嘱託	渕内美智子

平成 24 年度（整理作業）

文化財課	課長	田村泰彦
総括	埋蔵文化財係長	島田正浩
調整担当	主査	鳥枝　誠
整理担当	主任技師	秋成雅博
	嘱託	菊地ひろみ

平成 25 年度（整理作業）

文化財課	課長	橋口一也
総括	埋蔵文化財係長	島田正浩
調整担当	主任技師	秋成雅博
整理担当	主任技師	秋成雅博
	嘱託	菊地ひろみ

平成 26 年度（整理作業）

文化財課	課長	橋口一也
総括	埋蔵文化財係長	島田正浩
調整担当	主査	秋成雅博
整理担当	主査	秋成雅博
	嘱託	菊地ひろみ

平成 27 年度（整理作業）

文化財課	課長	日高貞幸
総括	埋蔵文化財係長	井田　篤
調整担当	主任技師	河野裕次
整理担当	主査	秋成雅博
	嘱託	菊地ひろみ

4．遺構の実測は秋成・石村・今村・岸田・川野・渕内が主体となって行い、一部を㈱イビソク宮崎営業所に委託した。
5．遺物実測は生目の杜遊古館にて秋成・河野・川野・岸田・渕内・橋口由佳（現高鍋町教育委員会）・菊地及び整理作業員が主体となって行った。なお一部の陶磁器の実測及びトレースを㈱イビソク宮崎営業所に、木製品のトレースを㈲ジパングサーベイに委託した。
6．出土陶磁器の判別については大部分を佐賀県立九州陶磁器館名誉顧問大橋康二氏に依頼した。その他にも鹿児島県陶磁器研究会の会員の皆様にご指導を賜った。
7．木製品及び鉄製品の保存処理は㈱葵文化に委託した。
8．遺構の写真撮影は秋成・石村・今村・岸田・川野が行い、空中写真については㈱スカイサーベイに委託した。また遺物の写真撮影は秋成が行った。
9．本書で使用する北は真北である。
10．本書の執筆は第1章第2節金丸武司が、第4節と墨書資料の解読を今城正広の指導をうけ秋成が、そのほかを秋成が行った。編集は秋成が行った。
11．出土遺物及び掲載図面・写真は宮崎市教育委員会で保管している。資料の閲覧・利用に関しては、事前に宮崎市教育委員会までお問い合わせいただきたい。
12．本発掘調査にかかる文書手続きは以下のとおりである。
試掘完了報告　平成22年5月7日　宮教文第328号5
工事通知（文化財保護法第94条）　平成22年11月15日　宮企政第147号2
着手報告　平成23年2月15日　宮教文379号3
終了報告　平成23年11月8日
発見通知　平成23年11月8日
保管証　　平成23年11月11日　宮教文592号

なお、本書の刊行に当たって多くの方にご協力をいただきました。記して感謝申し上げます。
（敬称略）
網　伸也（近畿大学文芸学部）、渡辺芳郎（鹿児島大学法文学部）、関　一之（鹿児島県姶良市教育委員会）、関　明恵（公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財センター）、深港恭子（薩摩伝承館）、堀田孝博（宮崎県立西都原考古博物館）、福田泰典（宮崎県立図書館）、柳田晴子（宮崎県埋蔵文化財センター）、二宮満夫（宮崎県文化財課）、佐藤省吾（宮崎県総合博物館）、新名一仁（宮崎市きよたけ歴史館）、瀧川哲哉（宮崎市佐土原歴史資料館）

本文目次

第Ⅰ章　はじめに …… 1
　第1節　佐土原城の立地と沿革について …… 1
　第2節　調査に至る経緯 …… 1
　第3節　調査の概要 …… 4
　第4節　佐土原藩の概要と渋谷氏と郡司氏について …… 9
第Ⅱ章　渋谷氏敷地内の調査 …… 11
　第1節　屋敷境の検討 …… 11
　第2節　渋谷氏敷地内の遺構について …… 11
　第3節　出土遺物について …… 54
　第4節　渋谷氏敷地内埋め立て範囲について …… 92
第Ⅲ章　郡司氏敷地内の調査 …… 107
　第1節　郡司氏敷地内遺構について …… 107
　第2節　出土遺物について …… 115
第Ⅳ章　その他の調査成果について …… 131
　第1節　城下町形成以前の遺構について …… 131
　第2節　遺構外遺物について …… 132
第Ⅴ章　佐土原城跡第6次調査における自然科学分析 …… 154
第Ⅵ章　まとめ
　第1節　検出遺構と空間利用について …… 173
　第2節　木札と「佐土原御城下細見之図」について …… 173
　第3節　近世の出土遺物について …… 173
　第4節　城下町整備前の遺構と遺物について …… 174

挿図目次

第1図　佐土原城跡周辺主要遺跡分布図 …… 2
第2図　佐土原城跡第6次調査地位置図 …… 3
第3図　佐土原城跡第6次調査全体遺構配置図 …… 5-6
第4図　佐土原城跡第6次調査主要遺構配置図 …… 7-8
第5図　佐土原城跡第6次調査溝状遺構配置図 …… 10
第6図　渋谷氏井戸16実測図 …… 12
第7図　渋谷氏井戸70実測図 …… 13
第8図　渋谷氏井戸100模式図 …… 14
第9図　渋谷氏池状遺構73実測図及び土層断面図 …… 15
第10図　渋谷氏廃棄土坑26実測図 …… 16
第11図　渋谷氏廃棄土坑28実測図 …… 16
第12図　渋谷氏廃棄土坑110実測図 …… 17
第13図　渋谷氏廃棄土坑144実測図 …… 18
第14図　渋谷氏廃棄土坑150実測図 …… 18
第15図　渋谷氏廃棄土坑151、土坑154・155実測図 …… 19
第16図　渋谷氏厠跡84実測図及び土層断面図 …… 20
第17図　渋谷氏厠跡85実測図及び土層断面図 …… 20
第18図　渋谷氏埋鉢遺構115実測図及び土層断面図 …… 20
第19図　渋谷氏土坑8実測図 …… 21
第20図　渋谷氏土坑15実測図 …… 21
第21図　渋谷氏土坑34実測図 …… 21
第22図　渋谷氏土坑35実測図 …… 22
第23図　渋谷氏土坑54実測図 …… 23
第24図　渋谷氏土坑79・86実測図 …… 24
第25図　渋谷氏土坑88実測図 …… 24
第26図　渋谷氏土坑91実測図 …… 25
第27図　渋谷氏土坑92実測図 …… 25
第28図　渋谷氏土坑93実測図 …… 25
第29図　渋谷氏土坑101実測図 …… 26
第30図　渋谷氏土坑116実測図 …… 26
第31図　渋谷氏土坑121実測図 …… 26
第32図　渋谷氏土坑122実測図 …… 26
第33図　渋谷氏土坑127・161実測図 …… 27
第34図　渋谷氏土坑127土層断面図 …… 28
第35図　渋谷氏土坑161土層断面図 …… 28

第36図　渋谷氏土坑131実測図 …… 29
第37図　渋谷氏土坑138実測図 …… 29
第38図　渋谷氏土坑140実測図 …… 29
第39図　渋谷氏土坑146実測図 …… 30
第40図　渋谷氏土坑162実測図 …… 30
第41図　渋谷氏土坑179実測図 …… 30
第42図　渋谷氏溝状遺構6土層断面図 …… 31
第43図　渋谷氏井戸16・70出土陶磁器
実測図 …… 33
第44図　渋谷氏井戸70、池状遺構73出土陶磁器
実測図 ……34
第45図　渋谷氏池状遺構73、廃棄土坑26・28
出土陶磁器実測図 …… 35
第46図　渋谷氏廃棄土坑110出土陶磁器
実測図① …… 36
第47図　渋谷氏廃棄土坑110出土陶磁器
実測図② …… 37
第48図　渋谷氏廃棄土坑110・144・150出土
陶磁器実測図 …… 38
第49図　渋谷氏廃棄土坑150、厠跡84・85出土
陶磁器実測図 …… 39
第50図　渋谷氏埋鉢遺構115、土坑8・34出土
陶磁器実測図 …… 40
第51図　渋谷氏土坑34出土陶磁器実測図 … 41
第52図　渋谷氏土坑34・35出土陶磁器
実測図 …… 42
第53図　渋谷氏土坑46・54・91・93・116・121出土
陶磁器実測図 …… 43
第54図　渋谷氏土坑122・127・131・138・146出土
陶磁器実測図 …… 44
第55図　渋谷氏土坑146・154・155・161出土
陶磁器実測図 …… 45
第56図　渋谷氏土坑161・162出土陶磁器
実測図 …… 46
第57図　渋谷氏土坑162・179・186出土
陶磁器実測図 …… 47
第58図　渋谷氏溝状遺構6出土陶磁器
実測図① …… 48
第59図　渋谷氏溝状遺構6出土陶磁器
実測図② …… 49
第60図　渋谷氏溝状遺構6出土陶磁器
実測図③ …… 50
第61図　渋谷氏溝状遺構6出土陶磁器
実測図④ …… 51
第62図　渋谷氏溝状遺構6出土陶磁器
実測図⑤ …… 52
第63図　渋谷氏溝状遺構6出土陶磁器
実測図⑥ …… 53
第64図　渋谷氏溝状遺構6出土陶磁器
実測図⑦ …… 54
第65図　渋谷氏溝状遺構6出土陶磁器
実測図⑧ …… 55
第66図　渋谷氏溝状遺構6出土陶磁器
実測図⑨ …… 56
第67図　渋谷氏溝状遺構6出土陶磁器
実測図⑩ …… 57
第68図　渋谷氏溝状遺構6出土陶磁器
実測図⑪ …… 58
第69図　渋谷氏溝状遺構6出土陶磁器
実測図⑫ …… 59
第70図　渋谷氏溝状遺構6出土陶磁器
実測図⑬ …… 60
第71図　渋谷氏溝状遺構6出土陶磁器
実測図⑭ …… 61
第72図　渋谷氏溝状遺構6、柱穴出土陶磁器
実測図 …… 62
第73図　渋谷氏柱穴出土陶磁器実測図 …… 63
第74図　渋谷氏井戸16・70、廃棄土坑110・151出土
土器実測図 …… 64
第75図　渋谷氏土坑8・54・91・127・161、
溝状遺構6出土土器実測図 …… 65
第76図　渋谷氏溝状遺構6、柱穴出土土器
実測図 …… 66
第77図　渋谷氏井戸70・池状遺構73、土坑54、

溝状遺構6出土土製品実測図 …… 67
第78図 渋谷氏溝状遺構6出土土製品
実測図① …… 68
第79図 渋谷氏溝状遺構6出土土製品
実測図② …… 69
第80図 渋谷氏溝状遺構6、柱穴出土土製品
実測図 …… 70
第81図 渋谷氏井戸16・70、池状遺構73、
廃棄土坑26・28・110・151、土坑34・46
出土瓦実測図 …… 71
第82図 渋谷氏土坑46・54・79・91・148・155、
溝状遺構6出土瓦実測図 …… 72
第83図 渋谷氏溝状遺構6、柱穴出土瓦
実測図 …… 73
第84図 渋谷氏井戸16・70、廃棄土坑26・110、
厠跡84、土坑34・54・88・127・柱穴
出土石製品実測図 …… 74
第85図 渋谷氏溝状遺構6出土石製品
実測図 …… 75
第86図 渋谷氏溝状遺構6・81出土石製品
実測図 …… 76
第87図 渋谷氏柱穴出土石製品実測図 …… 77
第88図 渋谷氏井戸16出土木製品
実測図① …… 78
第89図 渋谷氏井戸16出土木製品
実測図② …… 79
第90図 渋谷氏井戸70出土木製品
実測図① …… 80
第91図 渋谷氏井戸70出土木製品
実測図② …… 81
第92図 渋谷氏井戸70出土木製品
実測図③ …… 82
第93図 渋谷氏井戸70出土木製品
実測図④ …… 83
第94図 渋谷氏井戸70出土木製品
実測図⑤ …… 84
第95図 渋谷氏井戸100出土木製品
実測図 …… 85
第96図 渋谷氏井戸100、池状遺構73出土
木製品実測図 …… 86
第97図 渋谷氏厠跡84、土坑35・179出土
木製品実測図 …… 87
第98図 渋谷氏溝状遺構6出土木製品
実測図 …… 88
第99図 渋谷氏敷地内出土金属製品
実測図 …… 89
第100図 渋谷氏敷地内出土ガラス製品
実測図 …… 90
第101図 渋谷氏敷地内埋め立て範囲上面
検出廃棄土坑80実測図 …… 92
第102図 渋谷氏敷地内埋め立て範囲上面
検出廃棄土坑82実測図 …… 93
第103図 渋谷氏敷地内埋め立て範囲上面
検出廃棄土坑80出土陶磁器
実測図① …… 94
第104図 渋谷氏敷地内埋め立て範囲上面
検出廃棄土坑80出土陶磁器
実測図② …… 95
第105図 渋谷氏敷地内埋め立て範囲上面
検出廃棄土坑80出土陶磁器
実測図③ …… 96
第106図 渋谷氏敷地内埋め立て範囲上面
検出廃棄土坑82出土陶磁器
実測図 …… 97
第107図 渋谷氏敷地内埋め立て範囲上面
検出廃棄土坑80・82出土土器、
土製品、石製品実測図 …… 97
第108図 渋谷氏敷地内埋め立て範囲上面検出
廃棄土坑80出土木製品
実測図 …… 98
第109図 渋谷氏敷地内埋め立て範囲上面検出
廃棄土坑80・82出土木製品、金属製品、
ガラス製品実測図 …… 99
第110図 渋谷氏敷地内埋め立て土出土土器、

土製品、瓦、石製品実測図 …… 100
第111図 渋谷氏敷地内埋め立て土出土木製品
実測図 …… 101
第112図 渋谷氏敷地内埋め立て土出土木製品、
金属製品実測図 …… 102
第113図 渋谷氏敷地内埋め立て範囲下位検出
土坑173実測図 …… 103
第114図 渋谷氏敷地内埋め立て範囲下位検出
土坑177実測図 …… 103
第115図 渋谷氏敷地内埋め立て範囲下位検出
土坑178実測図 …… 103
第116図 渋谷氏敷地内埋め立て範囲下位検出
土坑184実測図 …… 103
第117図 渋谷氏敷地内埋め立て範囲下位検出
土坑173・177・184出土陶磁器、土器、
土製品、瓦、木製品実測図 …… 104
第118図 渋谷氏敷地内埋め立て範囲下位検出
土坑184出土木製品実測図 …… 105
第119図 渋谷氏敷地内埋め立て範囲下位検出
土坑184出土木製品、金属製品
実測図 …… 106
第120図 郡司氏井戸51実測図 …… 108
第121図 郡司氏廃棄土坑1実測図 …… 109
第122図 郡司氏廃棄土坑2実測図 …… 109
第123図 郡司氏廃棄土坑48実測図 …… 109
第124図 郡司氏厠跡156実測図 …… 109
第125図 郡司氏土坑12実測図 …… 110
第126図 郡司氏土坑18実測図 …… 110
第127図 郡司氏土坑23実測図 …… 110
第128図 郡司氏土坑27実測図 …… 111
第129図 郡司氏土坑31実測図 …… 111
第130図 郡司氏土坑33実測図 …… 111
第131図 郡司氏土坑55・56・57実測図 …… 112
第132図 郡司氏土坑58実測図 …… 113
第133図 郡司氏土坑59実測図 …… 114
第134図 郡司氏土坑60実測図 …… 114
第135図 郡司氏土坑67実測図 …… 115
第136図 郡司氏土坑98実測図 …… 115
第137図 郡司氏土坑160実測図 …… 116
第138図 郡司氏溝状遺構5土層断面図 …… 117
第139図 郡司氏廃棄土坑1・2・48出土陶磁器
実測図 …… 118
第140図 郡司氏廃棄土坑48出土陶磁器
実測図 …… 119
第141図 郡司氏廃棄土坑48、土坑12・23・27・33・
56・57出土陶磁器実測図 …… 120
第142図 郡司氏土坑58・59・67・98・160出土
陶磁器実測図 …… 121
第143図 郡司氏溝状遺構5出土陶磁器
実測図 …… 122
第144図 郡司氏溝状遺構5、柱穴出土陶磁器
実測図 …… 123
第145図 郡司氏土坑12・18・36・56・58・59・160、
柱穴出土土器、土製品実測図 …… 124
第146図 郡司氏溝状遺構5、廃棄土坑1・2・48、
土坑12・59・67出土土製品、瓦
実測図 …… 125
第147図 郡司氏廃棄土坑48、土坑67・160、溝状遺
構5、柱穴出土石製品実測図 …… 126
第148図 郡司氏井戸51、土坑31出土木製品
実測図 …… 127
第149図 郡司氏土坑67出土木製品
実測図① …… 128
第150図 郡司氏土坑67出土木製品
実測図② …… 129
第151図 郡司氏敷地内出土金属製品、
ガラス製品実測図 …… 130
第152図 溝状遺構83土層断面図 …… 132
第153図 溝状遺構83出土陶磁器実測図 …… 133
第154図 溝状遺構83出土陶磁器、土製品、
瓦実測図 …… 134
第155図 溝状遺構83出土石製品、木製品、
金属製品実測図 …… 135
第156図 中世以前の遺物実測図 …… 136

第157図　採集土製品、石製品、木製品、瓦
実測図 …… 137
第158図　渋谷氏・郡司氏屋敷復元想像図 … 153
第159図　渋谷氏郡司氏主要遺構配置図 … 175
第160図　佐土原城跡第6次調査中世以前の
可能性のある主要遺構配置図 … 177

表目次

第１表　陶磁器観察表① …… 138
第２表　陶磁器観察表② …… 139
第３表　陶磁器観察表③ …… 140
第４表　陶磁器観察表④ …… 141
第５表　陶磁器観察表⑤ …… 142
第６表　陶磁器観察表⑥ …… 143
第７表　陶磁器観察表⑦ …… 144
第８表　陶磁器観察表⑧ …… 145
第９表　陶磁器観察表⑨ …… 146
第10表　陶磁器観察表⑩ …… 147
第11表　土器観察表① …… 147
第12表　土器観察表② …… 148
第13表　土製品計測分類表 …… 149
第14表　石製品計測分類表① …… 149
第15表　石製品計測分類表② …… 150
第16表　木製品計測分類① …… 150
第17表　木製品計測分類② …… 151
第18表　木製品計測分類③ …… 152
第19表　金属製品計測分類表① …… 152
第20表　金属製品計測分類表② …… 153
第21表　ガラス製品計測分類表 …… 154
第22表　絵図や出土遺物から見た佐土原藩士
の生活様式の違い …… 176

図版目次

図版１　作業風景等 …… 178
図版２　渋谷氏井戸 …… 179
図版３　渋谷氏廃棄土坑① …… 180
図版４　渋谷氏廃棄土坑② …… 181
図版５　渋谷氏厠跡 …… 182
図版６　渋谷氏埋鉢遺構・土坑① …… 183
図版７　渋谷氏土坑② …… 184
図版８　渋谷氏土坑・溝状遺構・柱穴 …… 185
図版９　渋谷氏埋め立て範囲検出遺構及び
郡司氏井戸・廃棄土坑・厠跡 …… 186
図版10　郡司氏土坑及び溝状遺構83 …… 187
図版11　佐土原城跡6次調査出土遺物① … 188
図版12　佐土原城跡6次調査出土遺物② … 189
図版13　佐土原城跡6次調査出土遺物③ … 190
図版14　佐土原城跡6次調査出土遺物④ … 191
図版15　佐土原城跡6次調査出土遺物⑤ … 192
図版16　佐土原城跡6次調査出土遺物⑥ … 193
図版17　佐土原城跡6次調査出土遺物⑦ … 194
図版18　佐土原城跡6次調査出土遺物⑧ … 195
図版19　佐土原城跡6次調査出土遺物⑨ … 196
図版20　佐土原城跡6次調査出土遺物⑩ … 197
図版21　佐土原城跡6次調査出土遺物⑪ … 198
図版22　佐土原城跡6次調査出土遺物⑫ … 199
図版23　佐土原城跡6次調査出土遺物⑬ … 200
図版24　佐土原城跡6次調査出土遺物⑭ … 201
図版25　佐土原城跡6次調査出土遺物⑮ … 202

第Ⅰ章　はじめに

第１節　佐土原城の立地と沿革について

佐土原城跡は宮崎平野部を東西に流れる一ツ瀬川下流域の三財川との合流地点付近の南側にある小高い山に築城された山城である。創築の時期は明らかではなく、南北朝期に伊東氏の支族である田嶋氏が築城したと伝えられている。やがて室町期の伊東祐堯の頃に田嶋氏を滅ぼし、伊東氏の居城とし、祐堯の跡を継いだ祐国は文明十二年(1480)に佐土原を知行したといわれる。

天文年間にはいり伊東氏の相続をめぐる内部抗争が続くが、天文五年（1536）に伊東祐清（後の義祐）が家督を継承し、佐土原城に入城することとなる。天文六年（1537）に失火により佐土原城は燃え、義祐は宮崎城に移るが再び佐土原城に戻る。天文二十三年（1554）に義祐は都於郡に移るが、悲願である飫肥を手に入れた後、伊東氏の本城である都於郡城には義祐の息子である義益を、佐土原城には義祐、飫肥城には息子の祐兵を置いている。佐土原城は義祐の隠居所という位置づけであった。

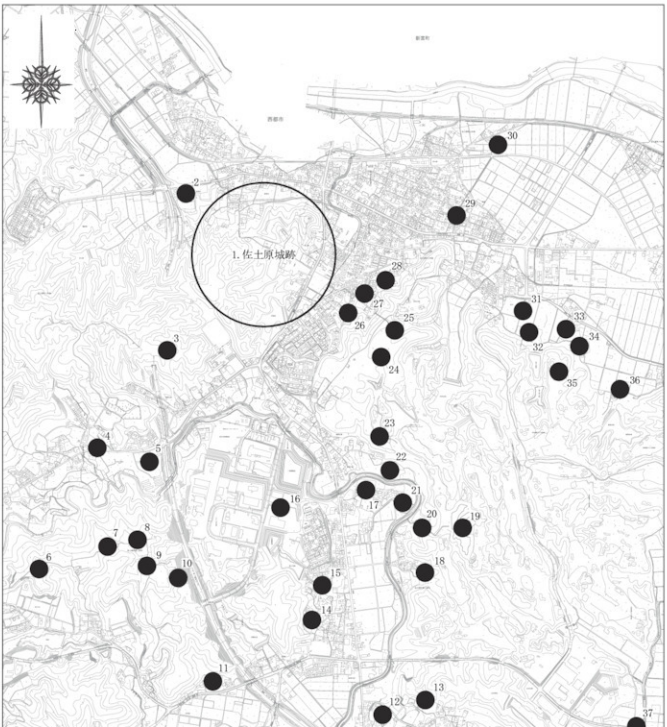
永禄十二年（1569）に義益が突然死亡してから混乱が見え始め、元亀三年（1572）の木崎原の合戦で伊東氏は島津氏に大敗する。天正四年（1576）に祐兵は飫肥城より佐土原城に移って体制を固めようとするが、翌年には島津氏が紙屋から侵入したため、伊東氏は総崩れとなり義祐とその一族は佐土原城を捨て豊後国に逃げてしまう。

島津氏の領国となった日向は守護代として島津家久が佐土原城に入城した。天正十五年（1587）の豊臣秀吉の九州侵攻によって島津氏は降伏、家久は急死してしまい、その子である豊久が城主となる。その豊久が慶長五年（1600）の関ヶ原の戦いで戦死したため、一時徳川家康の家臣である庄田三太夫が代官として派遣される。その後の島津氏の必死の訴えによって島津以久が慶長八年（1603）に佐土原初代藩主となる。２代忠興の頃に山上の天守を除いて山下の二ノ丸に藩庁移し、城下町を整備した。以後佐土原城は明治維新まで佐土原島津氏の居城であり、明治２年（1869）の広瀬転城まで存続した。

第２節　調査に至る経緯

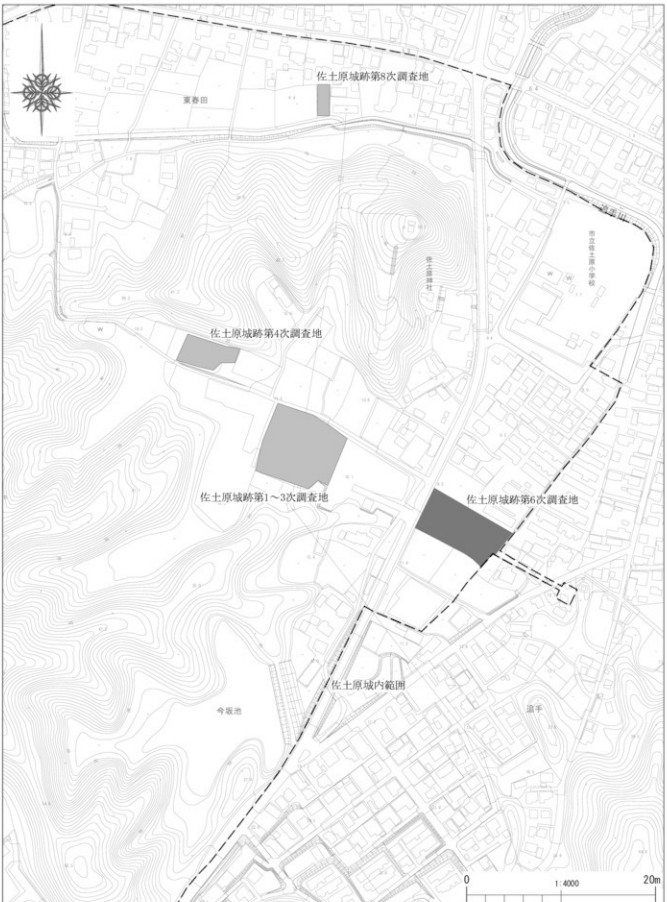
平成 19 年度、宮崎市は企画政策課を主導とし、佐土原中学校区における公民館・児童館等の複合施設の建設を目的とした「地区交流センター・(仮称）城の駅施設整備プロジェクト会議」を立ち上げ、事業地の選定も含めた施設の内容を検討すると共に、地元の要望事項の取りまとめ及び受け入れ体制の構築等を策定した。この会議で文化財課は佐土原町上田島追手の事業地決定に際し、周知の埋蔵文化財包蔵地「佐土原城跡」に隣接するため試掘調査が必要と回答した。

この事業は平成 20 年度、「(仮称）城の駅等整備事業」に引き継がれ、土地開発公社が用地取得事務に係る委託契約を締結。諸条件の整った一段高い南側の水田地について、平成 22 年 3 月 1 ～ 5 日に試掘調査を実施。次いで平成 22 年 9 月 7 ～ 10 日に、一段低い北側の水田地の試掘調査を実施した。その結果、事業地の全面に柱穴、溝、土坑など、近世に相当する遺構の広がりが確認された。なお、この結果を受け、文化財課は事業地を周知の埋蔵文化財包蔵地「佐土原城跡」に含めることとした。



1.佐土原城跡　2.岩崎遺跡　3.野首遺跡　4.境畑遺跡　5.尾曲遺跡　6.中原遺跡　7.内城第4遺跡
8.内城第1遺跡　9.内城第3遺跡　10.内城跡　11.伏原遺跡　12.福城寺遺跡　13.福城遺跡
14.松月下第2遺跡　15.松月下第1遺跡　16.石塚　17.西村第遺跡　18.叶迫遺跡　19.山田第3遺跡
20.山田第2遺跡　21.山田第1遺跡　22.坂ノ下遺跡　23.隠山遺跡　24.茶屋遺跡　25.十輪寺跡
26.後田第1遺跡　27.後田第2遺跡　28.後田第3遺跡　29.新城町遺跡　30.祝畑遺跡　31.松木田遺跡
32.宮ヶ迫遺跡　33.古城第2遺跡　34.古城第1遺跡　35.古城跡　36.坂本迫遺跡　37.井出下遺跡

第1図　佐土原城跡周辺主要遺跡分布図（S＝1/20000）



第2図　佐土原城跡第6次調査地位置図(S=1/4000)

その後文化財課・企画政策課・土地開発公社で事業地内の埋蔵文化財の保護について協議を重ね、平成22年11月29日、南側部分は掘削を伴わないアスファルトを敷く駐車場とし、北側部分は2m以上の盛土の上に施設を建設する計画でまとまったことから、県文化財課の勧告の下、北側部分について埋蔵文化財の本調査を実施することとなった。

本調査は、宮崎市土地開発公社と協定を結び、平成22年度～平成23年度の二ヵ年にわたって実施し、発掘調査で出土した陶磁器類をはじめとする遺物は膨大な量に及ぶため、平成24年度～平成27年度の四ヵ年にわたって整理作業を実施することとなった。

第3節 調査の概要

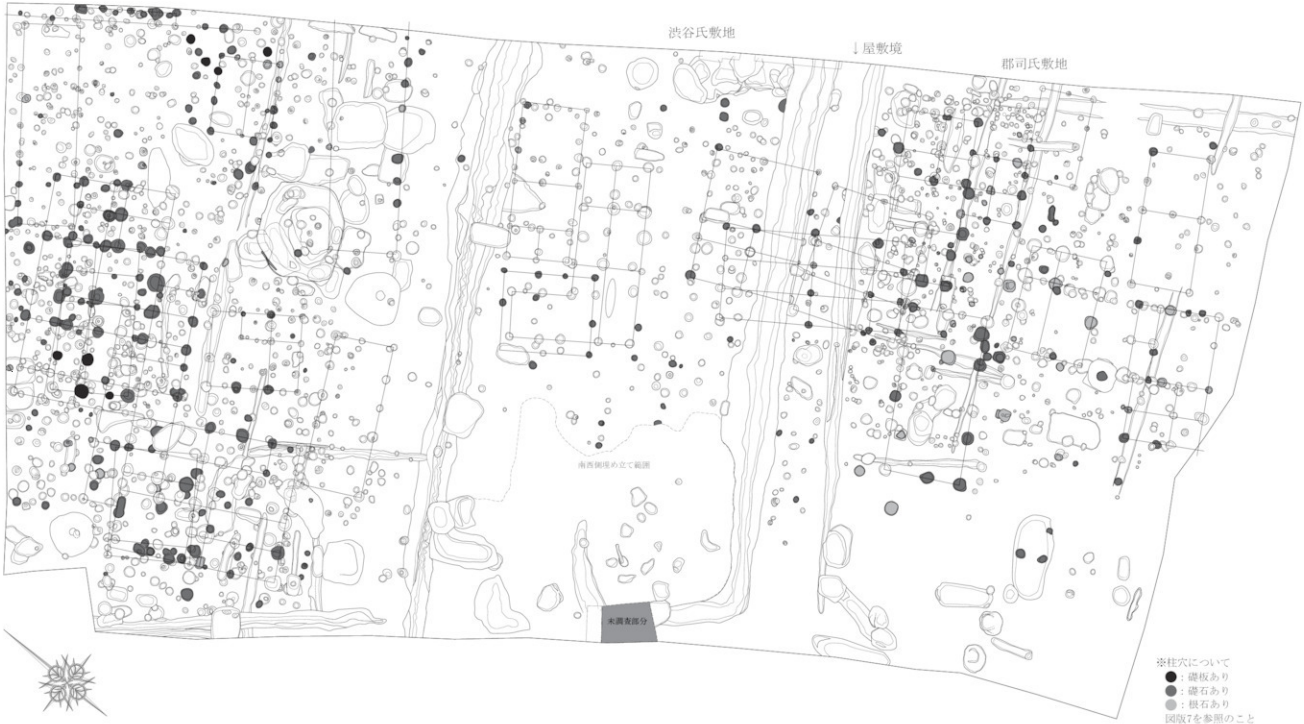
平成22年度の調査着手は平成23年1月17日からで0.35㎥バックホウによって表土を除去し、キャリアダンプで廃土を調査区南側の事業地内に運搬することからはじまった。表土下には部分的に数枚の遺構検出層が確認されたが、調査区全域に確認される地山の黄灰色土や黒褐色粘土の上面にて遺構検出を行うこととし、それらが露出するまで土をバックホウで掘削した。

表土剥ぎを開始して間もない1月22日には宮崎市内の養鶏場で高原性鳥インフルエンザの擬似患畜が見つかったり、1月26日には189年ぶりに新燃岳がマグマ噴火をおこすという事件が相次ぐという不安な調査の始まりとなった。新燃岳の降灰は本調査区にもみられ、一晩で地山が見えなくなるという影響もあった。2月1日から表土剥ぎと並行しながら発掘作業員による作業を開始した。22年度は調査区の全容把握のため、遺構検出作業を中心に行った。なお、まだ記憶に新しい東日本大震災がおきたのもこの年の3月11日である。調査区周辺にもパトロール車が津波の警告、避難勧告に訪れたことを覚えている。3月18日に発掘作業員による作業を中止し、それまで掘削した遺構について記録作業を行って22年度の調査は終了した。

平成23年度は4月20日から発掘作業員による作業を開始した。5月28日の台風2号の襲来により、調査区のほぼ半分が水没してしまうという事態が起きた。この後はこのときほど広範囲に水没することはなかったが、調査期間中この台風を含めて3回も襲来を受け、その度に調査区の復旧に労力を要した。本調査区はこのように雨が降るたびに多量の雨水と泥が遺構内外に溜まる事があり、その除去作業や防災作業に膨大な時間を費やすこととなった。発電機と水中ポンプを触らない日はなく、足場の悪い調査区内を移動するために道板が欠かせなかった。

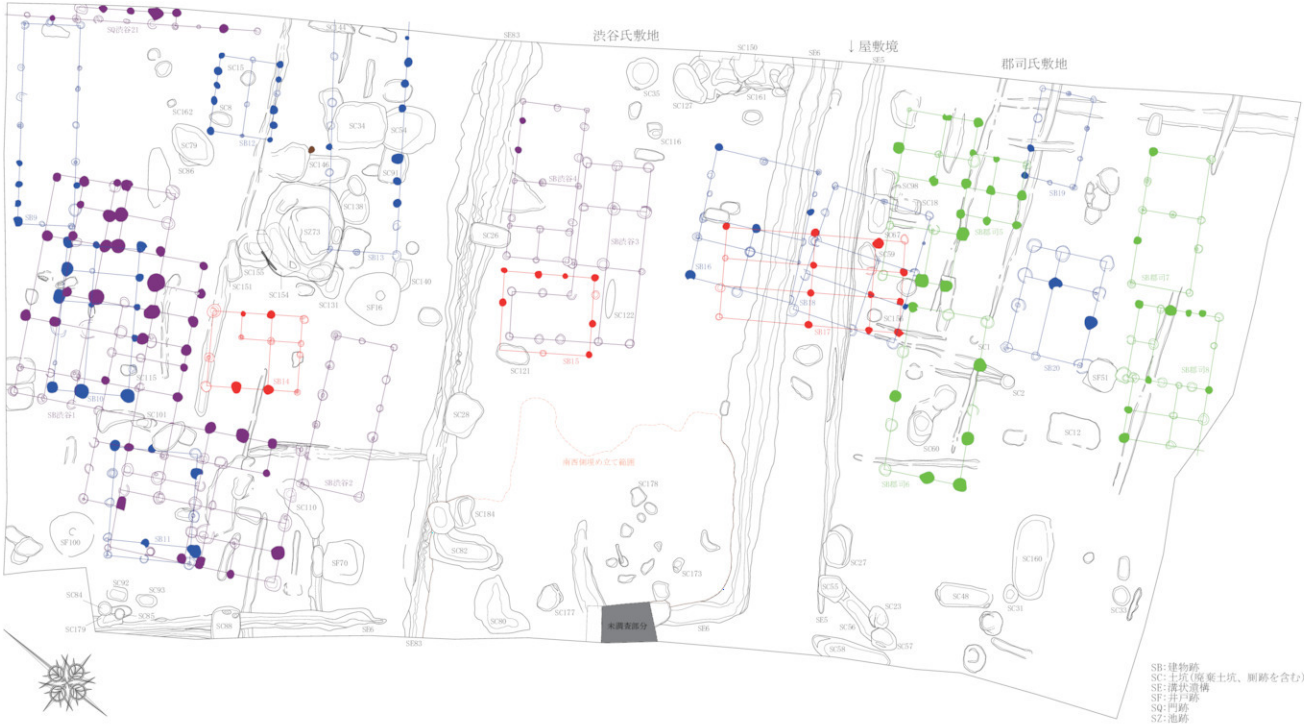
本調査で検出された主な遺構としては建物跡が20棟、池跡1基、井戸跡4基、厠跡3基、埋鉢遺構1基、廃棄土坑11基が挙げられる。その他に土坑、溝状遺構、柱穴も多数検出されている。また主な出土遺物としては中世から近世にかけての陶磁器類、土器、土製品、瓦、石製品、木製品、金属製品、ガラス製品などが挙げられる。

遺構密度が濃く、無数に検出される柱穴の記録作業の効率化を図るため、その一部の記録作業については専門業者に委託することとし、6月24日から9月28日まで作業は続いた。また空中写真撮影は長期間調査区全体を良好な状態で保つことができないと判断されたため、調査区自体を3分割して撮影を行い、その写真を合成することとした。空中写真の撮影は9月8日、9月14日、10月13日の3日間で行った。



第3図　佐土原城跡第6次調査全体遺構配置図（S=1/250）

0　1:250　10m



第4図　佐土原城跡第6次調査主要遺構配置図（S=1/250）

0　1:250　10m

調査区の南西部の一部にどの時期に行われたかは明らかではないが、広範囲に埋め立てを行っていることが判明した。その埋め立て土の下にも遺構が検出される可能性があったため、埋め立て土をバックホウを使用して除去する作業を10月3日から開始した。予想通り、埋め立て土の下には土坑などが検出され、それらの遺構からは「渋谷宇衛門」「渋谷直」などと書かれた木札が出土した。10月31日には発掘作業員による作業を終了し、それ以後は掘削した遺構の記録作業を行い11月7日には現地の作業をすべて終了した。

なお、本調査期間中に2度の普及活動をおこなった。一回目の6月25日には宮崎市埋蔵文化財センター生目の杜遊古館の事業である遊古館クラブの発掘体験として、参加者には遺構の一部の掘削をしてもらった。2回目は8月26日に一般向けに現地説明会を行い、主に渋谷氏の屋敷内の遺構・遺物について見学してもらった。見学者は約150名に及んだ。

第4節 佐土原藩の概要と渋谷氏と郡司氏について

佐土原藩は日向国那珂郡・児湯郡の一部を領有した小藩で、石高は元和三年の検地では三万七十石であった。4代忠高が逝去した際、後継者の万吉丸（5代惟久）が生まれたばかりであったため、従兄弟の久寿が番代として任に付き、その代償として三千石の分地を命じられたので二万七千七十石となった。その後佐土原藩は明治四年の廃藩置県まで改易・減封を受けることなく10代の忠寛まで続いた。佐土原藩には城下に597名、外城に494名の士族がいて（文政～天保年間）「一門家　寄合家　騎馬　中小姓　歩行　小頭　足軽」の七つの階級があった（註1）。

今回の調査地点は『佐土原御城下細見之図』から渋谷直記と郡司篤之助の屋敷地にあたることが想定された。両氏について佐土原藩の分限帳（安政二年）をみると、「寄合三百石渋谷直記」「騎馬百拾石内物成拾俵郡司庄太夫」と記載がある。佐土原藩の寄合は家老を出す家格で、若年寄や大目付の役職にも付き、騎馬は奏者番や祐筆の役職を勤め、囃子奉行や蔵奉行、進達、学頭などに任じられる家柄である。両家とも「慶長八年嶋津右馬頭以久公御代之衆（安永九年写）」には「渋谷左京（出所記載なし）」「郡司八郎右衛門（日向）」と記載があり、渋谷氏は以久が佐土原に入城する以前からの譜代の家臣で、郡司家は在地の一族であったことが推測されている（註2）。

渋谷氏については『佐土原藩史』（日高徳次郎著）に多くの記載があり、特に3代渋谷忠上についてその一部を紹介すると「渋谷監物（久上）はその来歴（註3）より忠字を許した」「たまたま江戸在番渋谷忠上が山口高直にかわって帰国する際老臣に列し、樺山久孝の上にすべき命があった。樺山家は垂水以来の門閥で、功労あった家筋で千石の禄を領し、家中筆頭の家柄であった。忠上は一門の出ではあったが新家ではあり、かたがた久孝はこの席次には不満であった」とあり、一時は城代家老の身分にもなることがあったが、この記載のとおり、政争の渦中にいたこともあったようである。渋谷氏は代々家老に就任して江戸任家老なども務めており、渋谷直記は『藩譜補修草稿』に「（天保十二年）八月十八日、番頭渋谷直記（久福）を若年寄に列し、富田地頭職を兼ねしむ。」「（嘉永元年）八月三日若年寄渋谷直記（久福）を家老に昇任す。」と記載がある。

青山幹雄氏の研究資料によると、渋谷氏と佐土原藩主との間には婚姻関係も認められ、郡司氏とも婚姻関係があるようである。

註1・註2：『宮崎県史通史編（近世）』「佐土原藩」より

註3：佐土原藩渋谷氏の初代忠元は以久の娘（2代藩主忠興の妹）の跡を継いでいる。

第5図　佐土原城跡第6次調査溝状遺構配置図(S=1/400)

第Ⅱ章　渋谷氏敷地内の調査

第１節 屋敷境の検討

『佐土原御城下細見之図』から本調査地点は渋谷直記と郡司篤之助の屋敷地にあたることが推測された。調査区全体の遺構検出を行うと、調査区の中央よりやや南東側に並列する２条の溝状遺構が検出された。両遺構の掘削作業を行ったところ、19 世紀代の遺物が大量に出土したのでこれらの遺構が城下図の年代とも合致することがわかった。両遺構が城下図に見られる屋敷境の軸線とそろうことやその位置関係からこれらの溝状遺構そのものか、両遺構間にある空間が屋敷境であったことが想定されるため、溝状遺構６を含む北西側を渋谷氏敷地、溝状遺構５を含める南東側を郡司氏敷地として調査を進めることとした。なお、整理作業における遺物の接合状況についても渋谷氏敷地内の遺構と郡司氏敷地内の遺構間の接合関係は２点しかみられなかった。

第２節 渋谷氏敷地内の遺構について

第１項　概要

渋谷氏の敷地内は地山の残存状況から敷地内の中央部よりやや北西側付近に段差が見られたため、一段高い北西側では黄灰色土が、低い南東側ではその下位に見られる黒褐色粘土が広く検出された。また調査区中央部の南西側では広範囲に地山が確認されず、遺構があまり見られない区域が存在したので、そこについては調査終了間際にバックホウで地山以外の土を除去し、その下から検出される遺構の調査を行った。渋谷氏敷地内で検出された遺構としては建物跡 13 棟、門跡１基、井戸３基、池状遺構１基、廃棄土坑８基、厠跡２基、埋鉢遺構１基、土坑多数、溝状遺構 14 条、柱穴多数である。建物跡のほとんどは室内作業における柱穴の配列状況の検討で判断したもので、溝状遺構６と主軸方向をおおむね同じとする４棟の建物跡を有機的な関係を持つ遺構と考える。

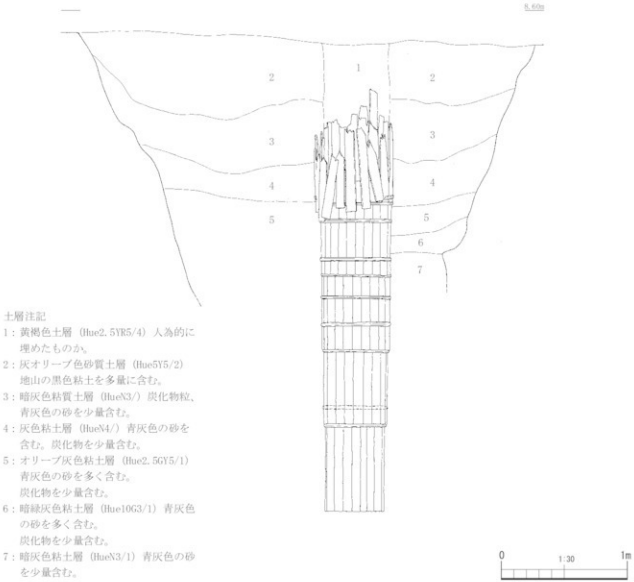
本節では前述の調査区中央部南西側を除いた近世の遺構を報告するので、その区域内で検出された廃棄土坑 80・82 や中世に該当する溝状遺構 83 および溝状遺構６と軸のそろわないSB渋谷１～４を除いた建物９棟については別章で報告する。

第２項　建物跡と門跡（第４図）

渋谷氏建物１　調査区の北西部の端で検出された。大きく北東部と南西部に分かれる平面プランで北東側は桁行は８間で長さ 15m、梁行４間で長さ 8.1m の部分と５間で長さ 10.8m の部分が見られる。南西部は桁行６間で長さ 13.2m、梁行きは４間で長さ 9m である。本遺構の主軸方向は N-61°-E で総床面積は 268.03 ㎡に及ぶ。

渋谷氏建物２　渋谷氏建物１の南東側に隣接しているため、切り合い関係にあるかまたは同じ建物の一部である可能性も考えられる。桁行５間で長さ 10.2m、梁行は２間で長さ 3.9m である。本遺構の主軸方向は N-63°-E で総床面積は 39.8 ㎡に及ぶ。

渋谷氏建物３　渋谷氏建物２の南東側に位置し、逆Ｌ字形の平面プランを呈している。北東部は桁行３間で長さ 8.7m、梁行は２間で長さは 4.2m、南西部は桁行４間で長さは 8.1m、梁行は１



第6図　渋谷氏井戸16実測図（S=1/30）

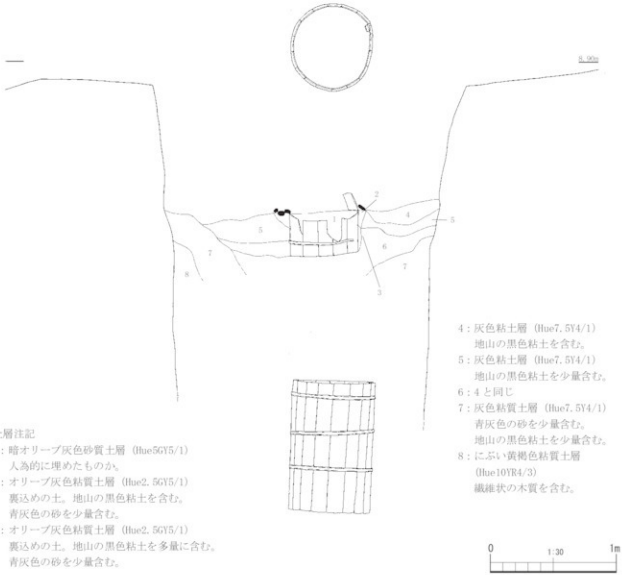
間で長さは3mである。本遺構の主軸方向はN-56°-Eで総床面積は60.8㎡に及ぶ。

渋谷氏建物4　渋谷氏建物3の北側に隣接しているため、切り合い関係にあるかまたは同じ建物の一部である可能性も考えられる。桁行6間で長さ10.2m、梁行は2間で長さ4.2mである。本遺構の主軸方向はN-56°-Eで総床面積は42.8㎡に及ぶ。

渋谷氏門跡21　渋谷氏建物1の北東側に位置する。溝状遺構6の方線とおおむね直交する主軸方向で、平面形状は15m以上延びる柵列のように見えるが、一部に並行する柱穴列もあることや『佐土原御城下細見之図』の記名の仕方から敷地内への入り口があった方向が想定されることから、本遺構は屋敷境の柵や門の一部の痕跡である可能性が考えられる。

第2項　井戸

井戸16（第6図）　渋谷氏建物2の北東側に近接している。掘り込みは直径3.7mの不正円形プランを呈する桶積み上げ式の井戸枠のものである。検出面から約0.5m掘削したところで直

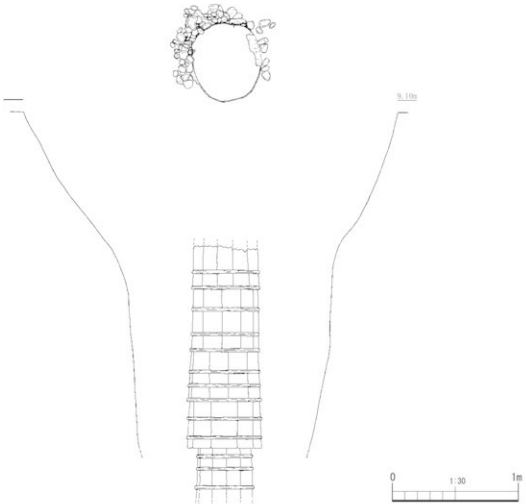


第7図　渋谷氏井戸70実測図（S=1/30）

径約55cmの井戸枠が検出された。井戸枠は全部で5段の積み上げが確認された。その下にもさらに井戸枠は続く様子が窺えたが、この段階で深さは3.7m以上にも達していたため、安全面を考慮して調査は中止した。なお、検出された井戸枠の5段目の内部の土には砂利が多く含まれていたため、井戸の最深部にある浄水装置のすぐ上の段には到達していたかもしれない。

本調査区では4基の井戸の調査を行ったが、どの井戸も掘削深度が検出面から約1mを超えたあたりから、地山の黒褐色粘土中に青灰色の砂が混じるようになる。掘削が進むほどそれが顕著となり、同時に水質も高くなった。さらに掘削を進めて検出面から3～4mの深さに達したあたりで青灰色砂層へと変わり、そこからはすさまじい水量の地下水が噴きだすという状況であった。

井戸70（第7図）　渋谷氏建物2の南西側に位置する。掘り込みは一辺2.5mの不正方形プランを呈する桶積み上げ式の井戸枠のものである。検出面から1mほど掘削したところで井戸枠



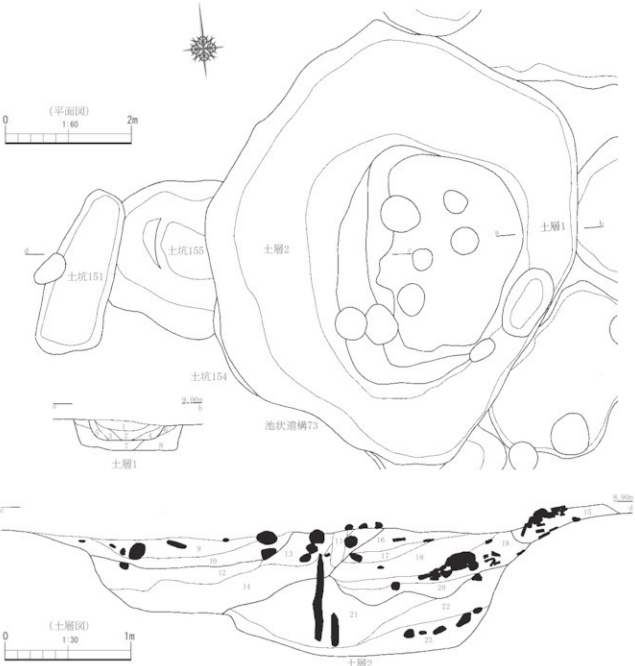
第8図　渋谷氏井戸100模式図（S=1/30）

の一部が、2.3mほど掘削したところでその最深部と考えられる部分が検出された。最深部の井戸枠の外側には瓦や礫で裏込めをしている状況が確認され、井戸枠内の下部では砂利や瓦片などが敷設されていたようだったが、地下水が噴出したため図や写真で記録することができなかった。

井戸100（第8図）　渋谷氏建物1西側で調査区の西端に位置する。掘り込みは直径3mの不正円形プランを呈する桶積み上げ式の井戸枠のものである。検出面から1mほど掘削したところ井戸枠が検出された。井戸枠は全部で4段の積み上げが残存しており、その下位には砂利を敷きつめた一回り小規模な板を並べた浄水装置を確認することができた。井戸枠の外側には砂利や瓦などで裏込めしている様子が見られた。また浄水装置の中から洪武通宝が出土している。

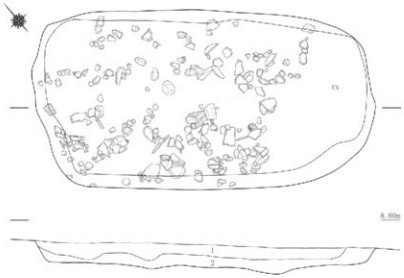
第3項　池状遺構（第9図）

池状遺構73　井戸16の北側に位置し、多くの土坑と切り合い関係にある。7.1m×6mの不整円形プランで、中央には3.8m×3mの不整形な地山を削り出す島があり、ドーナツ状を呈して



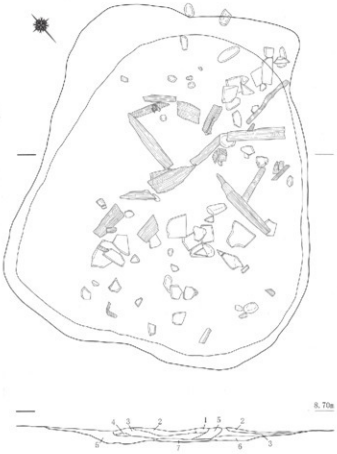
土層注記（新旧関係：155 → 151 → 154 → 73）
1：暗灰黄色砂層（Hue2.5Y4/2）鉄分を含む。炭化物を少量含む。
2：暗灰黄色砂質土層（Hue2.5Y5/2）鉄分を含む。炭化物を少量含む。
3：灰色砂質土層（Hue5Y4/1）鉄分を含む。灰白色の砂ブロックを含む。　4：灰色砂質土層（Hue5Y5/1）鉄分を多く含む。
5：灰オリーブ色砂質土層（Hue5Y4/2）鉄分を含む。　6：黄灰色砂質土層（Hue2.5Y5/1）鉄分、炭化物を含む。
7：オリーブ黒色シルト層（Hue5Y3/2）鉄分を含む。　8：褐灰色粘土層（Hue10YR4/1）鉄分、炭化物を少量含む。
9：暗オリーブ褐色シルト質土層（Hue2.5Y3/3）白色の砂を含む。炭化物粒を少量含む。
10：黄灰色シルト質土層（Hue2.5Y4/1）白色の砂を含む。炭化物を少量含む。
11：オリーブ黒色シルト層（Hue5Y3/2）炭化物を少量含む。　12：灰オリーブ色砂質土層（Hue5Y4/2）炭化物を少量含む。
13：灰色シルト質土層（Hue5YR6/1）炭化物を少量含む。　14：灰色シルト層（Hue5Y4/1）炭化物を含む。
15：灰黄色砂質土層（Hue2.5YR6/2）遺物を多量に含む。　16：暗灰黄色土層（Hue2.5Y5/2）炭化物を少量含む。
17：オリーブ褐色シルト質土層（Hue2.5YR4/3）炭化物を少量含む。　18：オリーブ黒色シルト質土層（Hue5Y3/2）炭化物を少量含む。
19：黄褐色シルト質土層（Hue2.5YR5/3）遺物を多く含む。炭化物を少量含む。
20：暗灰色砂質土層（HueN3/）青灰色の砂を少量含む。　21：暗オリーブ灰色シルト層（Hue2.5GY）青灰色の砂を少量含む。
22：灰色粘土層（HueN4/）青灰色の砂を少量含む。　23：オリーブ黒色粘土層（Hue5GY2/1）青灰色の砂を少量含む。

第9図　渋谷氏池状遺構73実測図（S＝1/60）及び土層断面図（S＝1/20・1/30）



土層注記
1：灰黄褐色砂質土層
(Hue10YR4/2)
焼土粒、礫を含む。
2：多量の木質で構成される層。
遺物は木質の間に含まれる。

第10図　渋谷氏廃棄土坑26実測図（S=1/30）

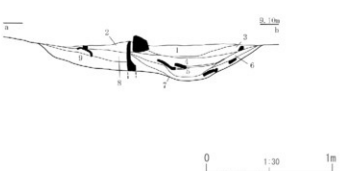


土層注記
1：灰色シルト質土層（Hue5Y5/1）
焼土粒、炭化物を含む。
2：多量の木質で構成される層。
焼土粒、炭化物が木質の間に含まれる。
3：黒褐色粘質土層（Hue10YR3/1）。
4：黒褐色粘質土層（Hue7.5YR2/2）
焼土粒、炭化物を含む。
5：炭化物で構成される層。
焼土粒、炭化材を含む。
6：暗オリーブ褐色砂質土層。灰の層か。
7：黄灰色砂質土層（Hue2.5YR5/1）。

第11図　渋谷氏廃棄土坑28実測図（S=1/30）

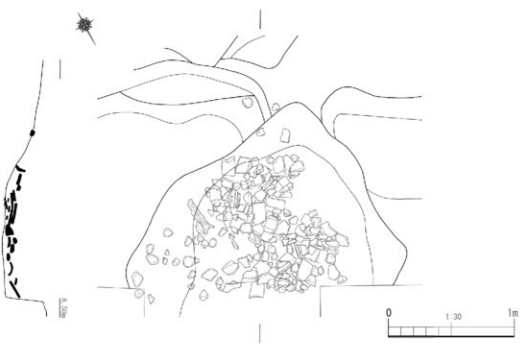
土層注記

1：褐灰色土層（Hue10YR6/8）地山の黄褐色土を多く含む。
　下層に炭化物を多く含む。
2：褐灰色砂質土層（Hue10YR4/1）遺物を多く含む。
3：灰白色砂質土層（Hue10YR7/1）地山の黄褐色土を含む。
4：褐灰色土層（Hue10YR5/1）炭化物、遺物を含む。
5：黄褐色シルト質土層（Hue10YR5/6）。
6：黒褐色粘質土層（Hue10YR3/1）遺物を含む。
7：褐灰色土層（Hue10YR5/1）。
8：灰黄褐色砂質土層（Hue10YR6/2）
　小礫、炭化物を少量含む。
9：褐灰色砂質土層（Hue10YR5/1）。



第12図　渋谷氏廃棄土坑110実測図（S=1/30）

第13図　渋谷氏廃棄土坑144実測図（S=1/30）



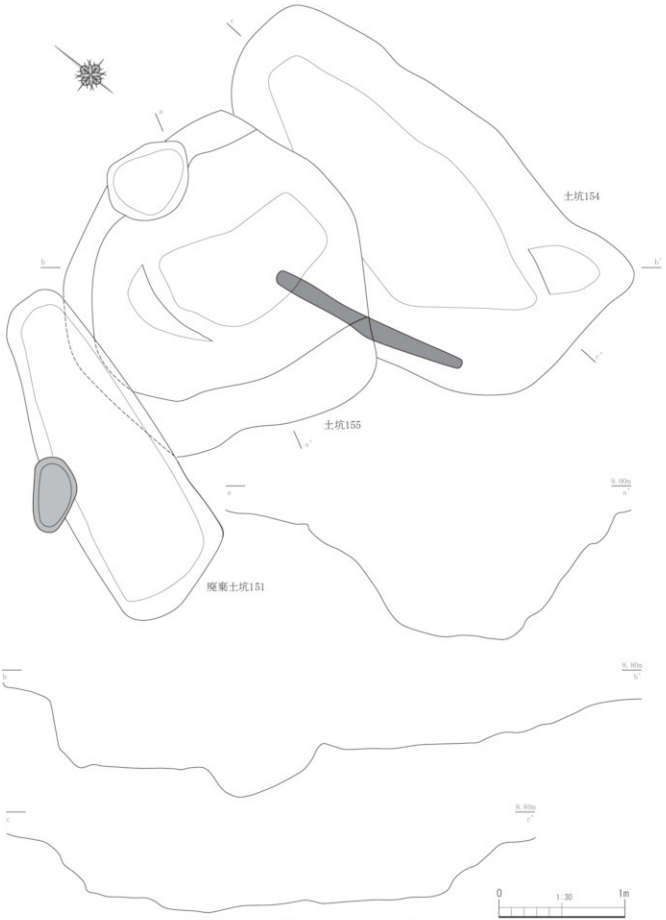
第14図　渋谷氏廃棄土坑150実測図（S=1/30）

いる。埋土は水質が高く砂や鉄分を多く含んでおり、水が溜まっていた状況が想定されたことと箱庭道具の部品が出土したため、池の跡という判断にいたった。水が溜まっていた部分の幅は0.85mから2.15mで、検出面からの深さは0.25mを測る。

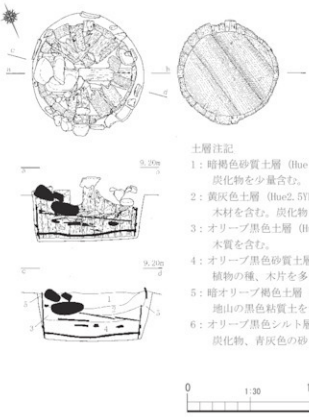
第4項　廃棄土坑

廃棄土坑26（第10図）　渋谷氏建物4の北西部に接する位置にある。2.7m×1.42mの不整楕円形プランで、検出面からの深さは0.2mを測る。埋土中から多くの遺物、礫が出土し、焼土や炭化物も多く見られたことから廃棄物を焼いた遺構の可能性が考えられる。

廃棄土坑28（第11図）　渋谷氏建物3の西側に位置する。2.78m×2.42mの不整台形のプラン

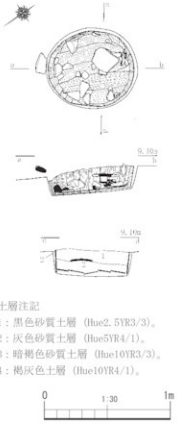


第15図　渋谷氏廃棄土坑151、土坑154・155実測図（S=1/30）



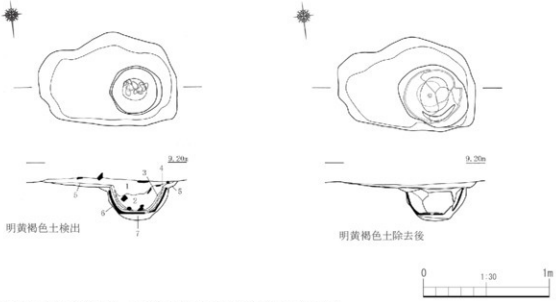
土層注記
1：暗褐色砂質土層（Hue10YR3/3）。
炭化物を少量含む。
2：黄灰色土層（Hue2.5YR4/1）
木材を含む。炭化物を少量含む。
3：オリーブ黒色土層（Hue5Y3/2）
木質を含む。
4：オリーブ黒色砂質土層（Hue5YR2/2）
植物の種、木片を多量に含む。
5：暗オリーブ褐色土層（Hue2.5YR3/3）
地山の黒色粘質土を含む。炭化物を少量含む。
6：オリーブ黒色シルト層（Hue5Y2/3）
炭化物、青灰色の砂を少量含む。

第16図　渋谷氏厠跡84実測図及び土層断面図（S=1/30）



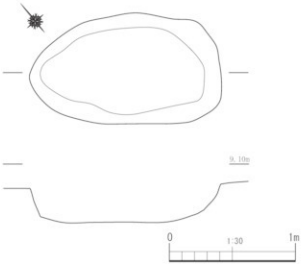
土層注記
1：黒色砂質土層（Hue2.5YR3/3）。
2：灰色砂質土層（Hue5YR4/1）。
3：暗褐色砂質土層（Hue10YR3/3）。
4：褐灰色土層（Hue10YR4/1）。

第17図　渋谷氏厠跡85実測図
及び土層断面図（S=1/30）

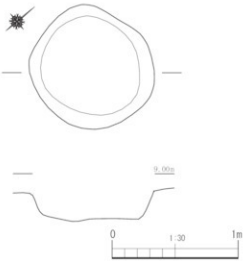


土層注記
1：灰黄褐色シルト質土層（Hue10YR5/2）。 2：暗灰黄シルト層（Hue2.5Y4/2）礫を含む。
3：明黄燈シルト層（Hue2.5YR7/6）。 4：明褐色シルト層（Hue7.5YR5/8）中央部非常に硬い。硬化面を形成。
5：明褐色シルト層（Hue7.5YR5/8）。 6：黒褐色粘質土層（Hue10YR3/1）。
7：暗黄褐色砂質土層（Hue2.5YR4/2）。

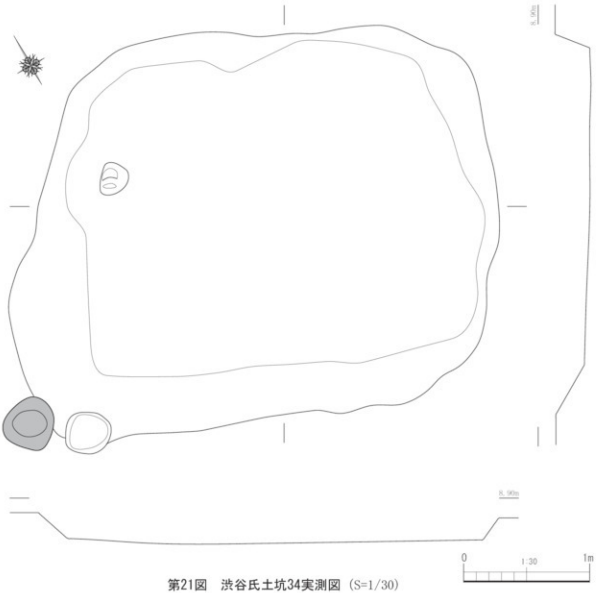
第18図　渋谷氏埋鉢遺構115実測図（S=1/30）及び土層断面図（S=1/30）



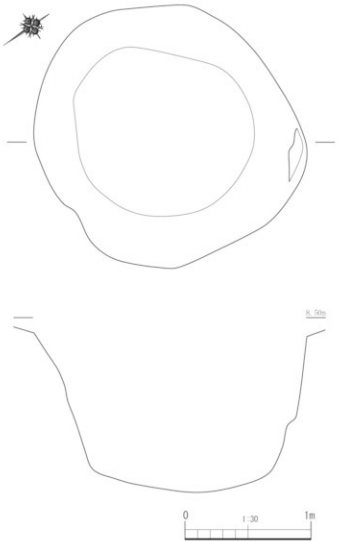
第19図　渋谷氏土坑8実測図（S=1/30）



第20図　渋谷氏土坑15実測図（S=1/30）



第21図　渋谷氏土坑34実測図（S=1/30）



第22図　渋谷氏土坑35実測図（S=1／30）

で検出面からの深さは0.13mを測る。埋土中からは多くの遺物、礫が出土したが、特に木製品の出土が目立った。廃棄土坑26と同様に埋土中には焼土、炭化物が多く見られており、また灰層も確認されているので本遺構も廃棄物を焼いた遺構の可能性が考えられる。

廃棄土坑110（第12図）　井戸70の北側にあり、渋谷氏建物1・2を切っていることから、転城時以降に形成された可能性が考えられる。4.36m×2.02mの不整形なプランで、検出面からの深さは0.28mを測る。埋土中からは大量の遺物、礫が出土している。

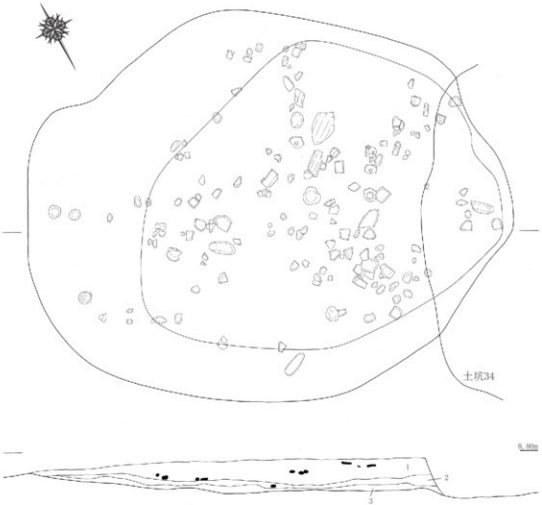
廃棄土坑144（第13図）　渋谷氏門21の南東側にあり、一部は調査区外に及んでいる。3.06m×0.52m以上の不整方形か楕円形プランが想定される。検出面からの深さは0.1m～0.18mを測る。埋土中から多くの遺物、礫が出土したが特に瓦の出土が目立っていた。

廃棄土坑150（第14図）　渋谷氏建物3の東側にあり、一部は調査区外に及び土坑161を切っている。2.23m×1.5mの不整形なプランで、検出面からの深さは0.22mを測る。埋土中からは多くの遺物、礫が出土したが特に瓦の出土が目立った。

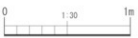
廃棄土坑151（第15図）　池73の西側にあり、土坑155を切っている。2.62m×0.99mの不整方形プランを呈する。雨の影響で地山が流れてしまい、廃棄された遺物だけが残存するという状況になってしまい、深さを記録することができなかった。礫を大量に廃棄した遺構である。

第5項　厠跡

厠跡84（第16図）　井戸100の南側に位置する。直径0.9mの円形プランの掘り込みの中に底径が0.7mの桶が埋まっていた遺構で、検出面からの深さは0.38mを測る。桶と掘り込みの間は瓦や礫などで裏込めされていた。桶内部には桶上部の折れた部材や礫、陶磁器などが出土している。また桶内部の土について分析を行ったところ、寄生虫卵や糞便の堆積物が確認され、便槽の可能性が高いという結果が得られた。そのほかにも多くの種実などが出土している。



土層注記
1：褐灰色砂質土層（Hue10YR4/1）遺物を含む。 2：黒褐色粘質土層（Hue10YR4/3）木質を含む。
3：黄灰色砂質土層（Hue2.5YR4/1）木質を含む。

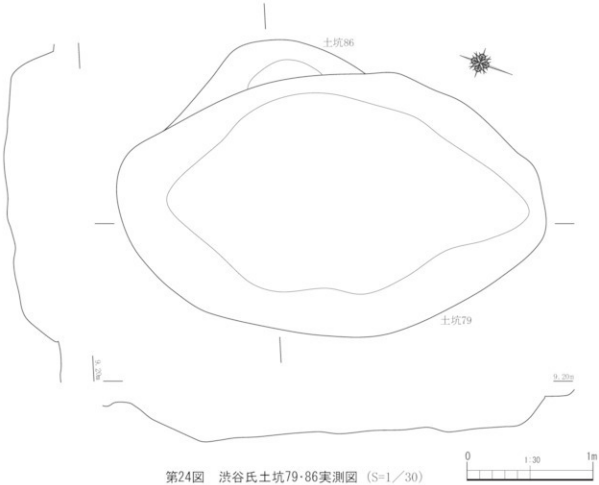


第23図　渋谷氏土坑54実測図

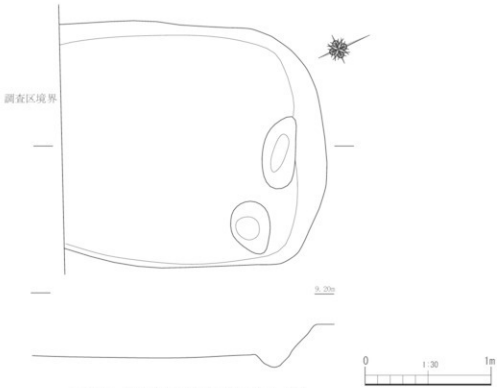
厠跡85（第17図）　厠跡84の南東側に位置する。0.74m×0.62mの不整楕円形プランの掘り込みの中に底径0.58mの桶が埋まっていた遺構で、検出面からの深さは0.18mを測る。厠跡84と同じ構造であり本遺構も厠跡と考えられるが、やや小規模で寄生虫卵の検出は少なく、糞便の堆積物は確認されなかった。厠跡84と隣接するので厠跡84は大便用、こちらは小便用と使い分けられていた可能性があると分析されている。桶の内部からは礫、陶磁器などが出土している。

第6項　埋鉢遺構（第18図）

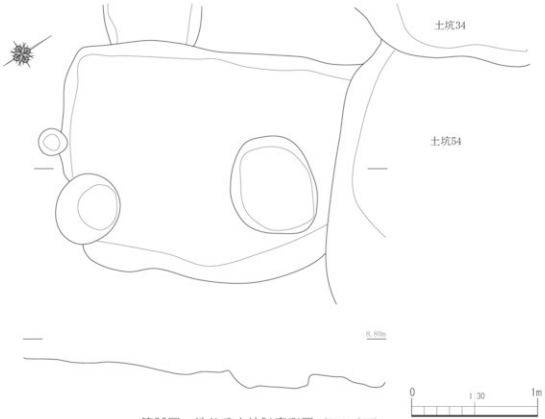
埋鉢遺構115　渋谷氏建物1の南東部に位置する。検出時には1.08m×0.74mの不整方形プランの縁に明黄褐色土が巡る状況であった。明黄褐色土を残して内側の土を除去したところ、西側が一段窪んでその床面に10数点の礫が確認された。さらに明黄褐色土除去すると窪んでいた西側部分には口縁部を打ち欠いた大形の鉢が埋められていた。鉢の底面には穿孔が確認されている。検出面からの深さは浅いところで0.07m、深いところで0.31mを測る。渋谷氏建物1



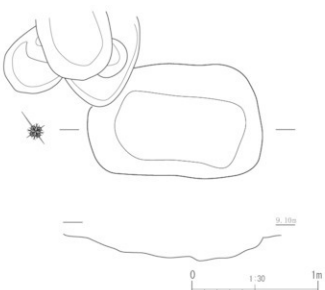
第24図　渋谷氏土坑79･86実測図（S=1／30）



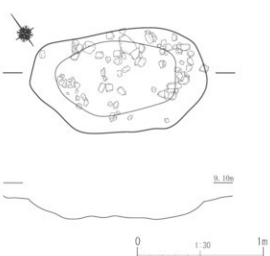
第25図　渋谷氏土坑88実測図（S=1／30）



第26図　渋谷氏土坑91実測図（S=1／30）



第27図　渋谷氏土坑92実測図（S=1／30）

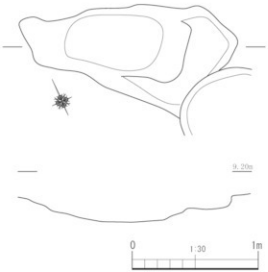


第28図　渋谷氏土坑93実測図（S=1／30）

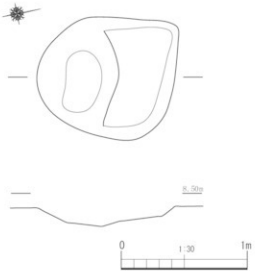
との切り合い関係や用途もはっきりしないが、位置関係からは建物に付随する施設の可能性も考えられる。

第７項　土坑

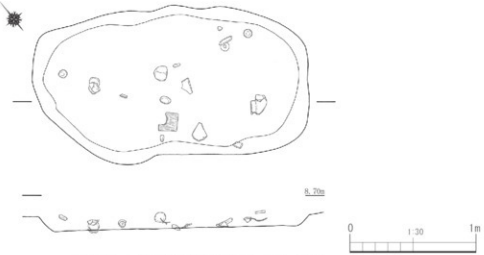
土坑８（第19図）　渋谷氏建物１の北東部に位置する。1.52m × 0.88m の不整楕円形プランを



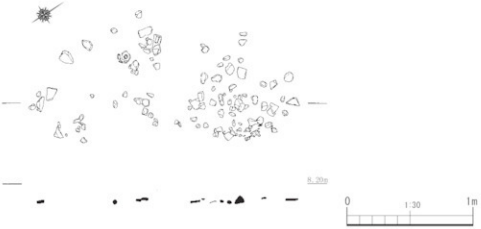
第29図　渋谷氏土坑101実測図（S=1／30）



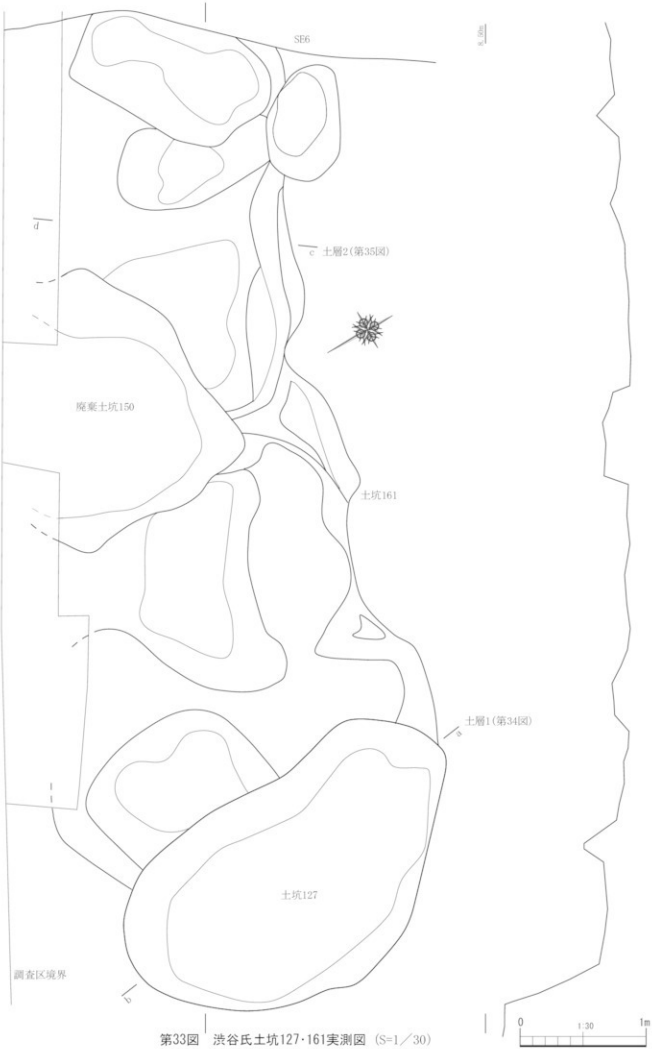
第30図　渋谷氏土坑116実測図（S=1／30）



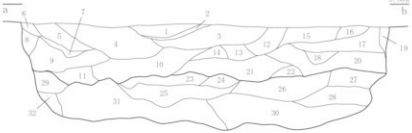
第31図　渋谷氏土坑121実測図（S=1／30）



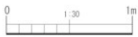
第32図　渋谷氏土坑122実測図（S=1／30）



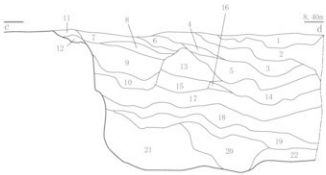
第33図　渋谷氏土坑127・161実測図（S=1／30）



土層注記
1:灰黄褐色シルト質土層(Hue10YR4/2)地山の砂質ブロックと粘土ブロックを多量に含む。
2:黒褐色粘土層(Hue10YR3/2)地山の砂質ブロックを含む。
3:褐灰色シルト質土層(Hue7.5YR4/3)地山の粘土ブロックを少量を含む。10cm程度の礫を多量に含む。出土遺物多い。
4:褐灰色シルト質土層(Hue10YR4/1)地山の粘土ブロックを少量含む。　5:灰黄色砂質土層(Hue2.5Y6/2)。
6:黄灰色粘土層(Hue2.5Y6/2)地山の崩落土か。　7:灰黄褐色シルト質土層(Hue10YR4/2)地山の砂質ブロックを少量含む。
8:黒褐色粘土層(Hue10YR3/2)地山の崩落土か。　9:にぶい黄褐色砂質土層(Hue10YR4/1)地山の粘土ブロックを少量含む。
10:褐灰色砂質土層(Hue10YR4/1)炭化物を少量含む。　11:灰黄褐色砂質土層(Hue10YR6/2)地山の粘土ブロックを少量含む。
12:灰黄褐色シルト層(Hue10YR4/2)地山の砂質ブロックと粘土ブロックを多量に含む。
13:暗灰黄色砂質土層(Hue2.5Y5/2)。　14:灰黄褐色砂質土層(Hue10YR5/2)地山の砂質ブロックを含む。
15:灰黄褐色シルト質土層(Hue10YR5/2)。　16:褐灰色シルト質土層(Hue10YR5/1)10cm程度の礫を少量含む。
17:褐灰色シルト質土層(Hue10YR5/1)。　18:浅黄色砂質土層(Hue2.5Y6/1)地山の砂質ブロックを多量に含む。
19:灰黄褐色シルト質土層(Hue10YR6/2)。　20:灰黄褐色砂質土層(Hue10YR5/2)地山の砂質ブロックを含む。
21:褐灰色シルト質土層(Hue10YR6/1)。　22:褐灰色シルト質土層(Hue10YR5/1)。　23:灰黄褐色シルト質土層(Hue10YR4/2)。
24:黄灰色シルト質土層(Hue2.5YR6/1)。　25:灰色土層(Hue5Y4/1)地山の粘土ブロックを少量含む。
26:灰色土層(Hue5Y4/1)。27:黒褐色粘土層(Hue10YR3/2)地山の崩落土か。28:灰色土層(Hue7.5Y5/1)。
29:黒褐色粘土層(Hue10YR3/2)地山の砂質ブロックを少量含む。30:灰色土層(Hue5Y4/1)地山の粘土ブロックを含む。
31:灰色土層(Hue5Y4/1)地山の粘土ブロックを多量に含む。　32:黒褐色粘土層(Hue10YR3/2)地山の崩落土か。

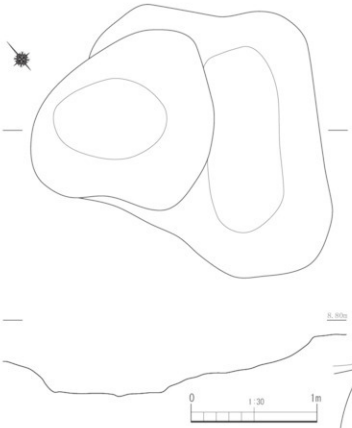


第34図　渋谷氏土坑127土層断面図 (S=1／30)

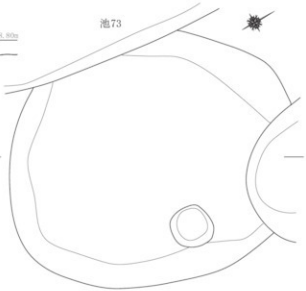


土層注記
1:にぶい黄褐色シルト質土層(Hue10YR4/3)　地山の砂質ブロックを多量に含む。3mm程度の礫を少量含む。
2:褐灰色シルト質土層(Hue10YR4/1)炭化物少量含む。　3:にぶい黄褐色シルト質土層(Hue10YR4/3)炭化物を少量を含む。
4:灰黄褐色シルト質土層(Hue10Y4/2)地山の砂質ブロックを少量含む。　5:灰黄褐色シルト質土層(Hue10YR5/2)。
6:5と同じ。　7:褐色シルト質土層(Hue10YR4/4)　炭化物を少量を含む。
8:褐灰色シルト層(Hue10YR4/1)地山の粘土ブロックを含む。炭化物を少量を含む。
9:褐灰色シルト質土層(Hue10YR4/1)地山の砂質ブロックと粘土ブロックを含む。
10:暗灰黄色砂質土層(Hue2.5Y5/2)地山の砂質ブロックを含む。　11:1と同じ。　12:褐灰色粘土層(Hue10YR4/1)。
13:黄褐色シルト質土層(Hue2.5Y5/3)炭化物を少量を含む。　14:灰色シルト層(HueN5/)5mm程度の礫、炭化物を少量を含む。
15:黄灰色砂質土層(Hue2.5Y6/1)下部にマンガンが目立つ。　16:黄灰色砂質土層(Hue2.5Y6/1)15よりマンガンが少ない。
17:灰色砂質土層(HueN6/)地山の粘土ブロックを含む。砂が磨状に見られる。
18:黄灰色シルト質土層(Hue2.5Y6/1)地山の砂質ブロックを含む。
19:灰色土層(HueN6/)砂と粘土の層。地山の粘土ブロックを含む。
20:緑灰色土層(Hue5G5/1)砂と粘土の層。地山の粘土ブロックを少量含む。
21:灰色粘質土層(HueV4/)地山の粘土ブロックを多量に含む。
22:灰色粘質土層(Hue10YR5/1)地山の粘土ブロックを多量に含む。

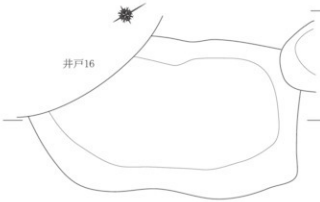
第35図　渋谷氏土坑161土層断面図 (S=1／30)



第36図　渋谷氏土坑131実測図（S=1／30）

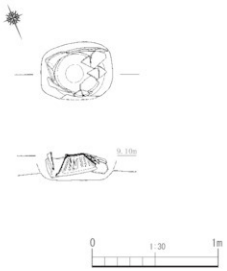


第37図　渋谷氏土坑138実測図（S=1／30）

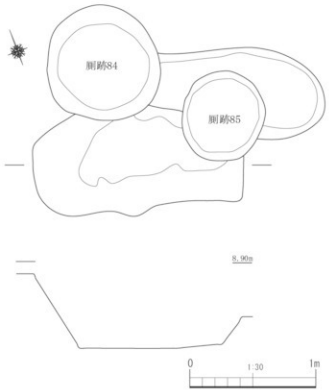


第38図　渋谷氏土坑140実測図（S=1／30）

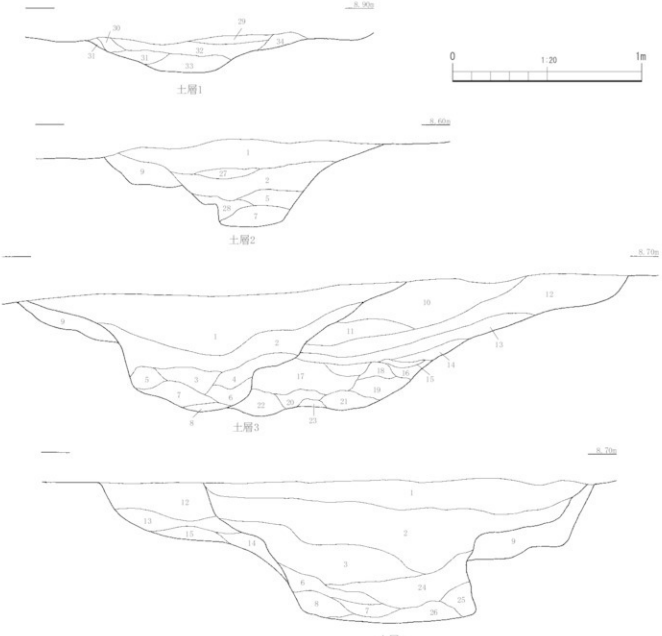
第39図　渋谷氏土坑146実測図（S=1／30）



第40図　渋谷氏土坑162実測図（S=1／30）



第41図　渋谷氏土坑179実測図（S=1／30）



土層注記

1：褐色土層（Hue10YR4/1）。　2：黒褐色シルト質土層（Hue10YR2/1）。　3：黄灰色粘質土層（Hue2.5Y4/1）。
4：黄褐色シルト質土層（Hue5Y5/3）。　5：黒褐色粘土層（Hue2.5YR3/2）。　6：灰色粘質土層（Hue5Y4/1）。
7：黒色粘土層（Hue2.5Y）。　8：灰色砂質土層（N6/）灰黄色の砂を含む。　9：オリーブ黒色土層（Hue5Y3/2）。
10：灰色土層（Hue5Y4/1）。　11：灰オリーブ色土層（Hue5Y4/2）。　12：オリーブ黒色シルト質土層（Hue5Y3/2）。
13：灰オリーブ色砂層（Hue7.5Y5/2）。　14：灰色土層（Hue5Y4/1）。　15：黄灰色粘質土層（Hue7.5Y4/1）。
16：黄灰色粘質土層（Hue7.5Y5/1）。　17：黄褐色シルト質土層（Hue2.5Y5/4）　18：灰色シルト質土倉（Hue5Y5/1）。
19：黄灰色粘土層（Hue2.5YR4/1）。　20：オリーブ黒色粘土層（Hue5Y3/2）。　21：黒褐色粘土層（Hue10YR3/2）。
22：灰色粘土層（Hue5Y4/1）。　23：黄灰色粘質土層（Hue2.5YR4/1）。　24：暗オリーブ褐色粘質土層（Hue5Y3/2）。
25：暗オリーブ色シルト質土層（Hue2.5YR3/3）。　26：黄灰色粘質土層（Hue2.5YR4/2）。
27：オリーブ黒色粘土層（Hue5Y3/2）　28：黄褐色砂質土層（Hue2.5YR5/6）。　29：灰色粘質土層（Hue5Y4/1）。
30：暗オリーブ褐色砂質土層（Hue2.5Y3/3）。　31：オリーブ黒色土層（Hue5Y3/2）。　32：黒褐色シルト質土層（Hue2.5Y3/2）。
33：暗オリーブ色シルト質土層（Hue2.5YR3/3）。　34：灰色粘土層（Hue7.5Y4/1）。　35：灰色砂質土層（Hue7.5Y）。
36：灰色砂質土層（Hue2.5YR4/2）　37：灰色砂質土層（Hue5Y4/1）。　38：灰色砂層（Hue5Y6/1）。

第42図　渋谷氏溝状遺構6土層断面図（S＝1/20）

呈し、検出面からの深さは0.29mを測る。

土坑15（第20図）　土坑8の東側に位置する。0.98m×0.92mの不整円形プランを呈し、検出面からの深さは0.23mを測る。

土坑34（第21図）　池状遺構73の東側に位置する。3.78m×3.04mの不整方形プランを呈し、検出面からの深さは0.27mを測る。南東側が土坑54と切り合っていたが本遺構のほうが新しいことを確認している。埋土中から多くの遺物が出土したが密集する様子ではなかった。

土坑35（第21図）　渋谷氏建物3の北東側に位置する。2.18m×1.94mの不整円形プランを呈し、検出面からの深さは1.24mを測る。床面付近には常時水が湧くような状況であった。本遺跡で検出された井戸に比べると浅く水量も少ないため、別の性格の遺構と考えられる。

土坑54（第23図）　北西側が土坑34と南西側が土坑91と切り合っていた。前述のとおり土坑34より古く、土坑91よりは新しいことを確認している。3.84m×3.1mの不整楕円形プランを呈し、検出面からの深さは0.24mを測る。埋土には木質が多く確認された。土坑34と同様に多くの出土遺物が認められたが、やはり密集するような状況ではなかった。

土坑79・86（第24図）　渋谷氏建物1と土坑8の間に位置する。土坑79は3.38m×2.08mの不整楕円形プランを呈し、検出面からの深さは0.4mを測る。土坑86は大半を土坑79に切られているため全体の形状はわからなかった。

土坑88（第25図）　井戸70の西側に位置し、一部は調査区の外まで続いている。現状では2.08m×1.94mの隅丸方形プランを呈し、検出面からの深さは0.27mを測る。溝状遺構6・81と切り合い関係にあり、本遺構のほうが新しいことが確認されている。

土坑91（第26図）　北東側が土坑54と接しているため、全体の形状は明らかではないが2.22m×1.86mの隅丸長方形プランを呈している。検出面からの深さは0.1m～0.03mを測る。

土坑92（第27図）　厠跡84の東側に位置する。1.38m×0.9mの不整長方形プランを呈し、検出面からの深さは0.18mを測る。

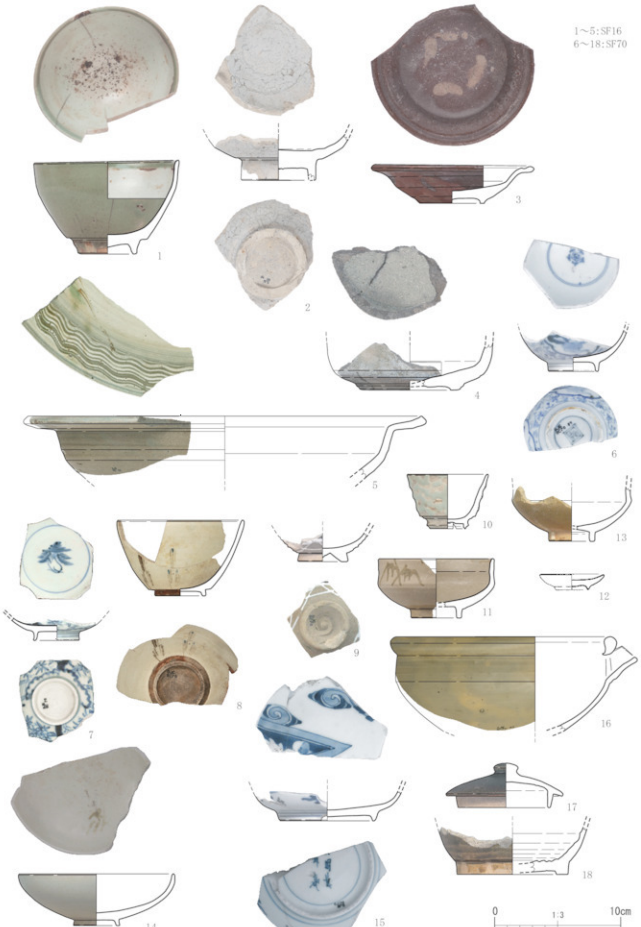
土坑93（第28図）　土坑92の南東側に位置する。1.4m×0.8mの不整楕円形プランを呈し、検出面からの深さは0.17mを測る埋土中から多くの遺物が出土したが密集する様子ではなかった。

土坑101（第29図）　埋鉢遺構115の南側に位置し、渋谷氏建物1の中にある。1.74m×0.86の東側が広がる不整楕円形プランを呈する。幅が広がる東側に一段テラスがあり、検出面からの深さはテラス部分で0.1m、床面までは0.19mを測る。

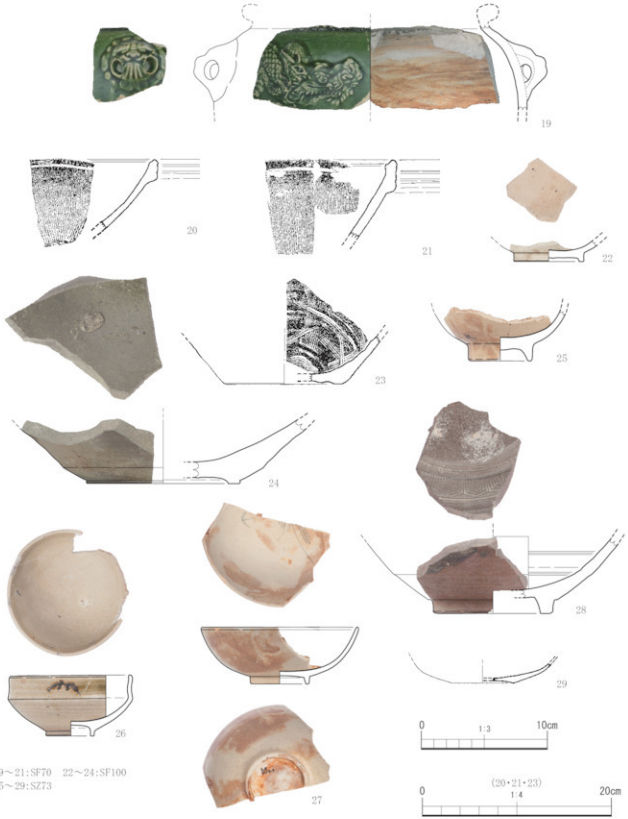
土坑116（第30図）　渋谷氏建物3と土坑35の間に位置する。1.08m×0.98mの不整円形プランを呈する。北側に一段テラスがあり、検出面からの深さはテラス部分で0.11m、床面までは0.16mを測る。

土坑121（第31図）　渋谷氏建物3の西側に隣接する。2.18m×1.18mの不整円形プランを呈し、検出面からの深さは0.11mを測る。

土坑122（第32図）　渋谷氏建物3の南東部の中にある。大きく削平を受けており、ほとんど床面部分しか残存していなかった。遺物が密集していたため、検出できた遺構である。北東部と南西部で遺物の密集状況が異なるため、本来は2基の土坑であった可能性も考えられる。北東部では木質や炭化物の分布も認められた。

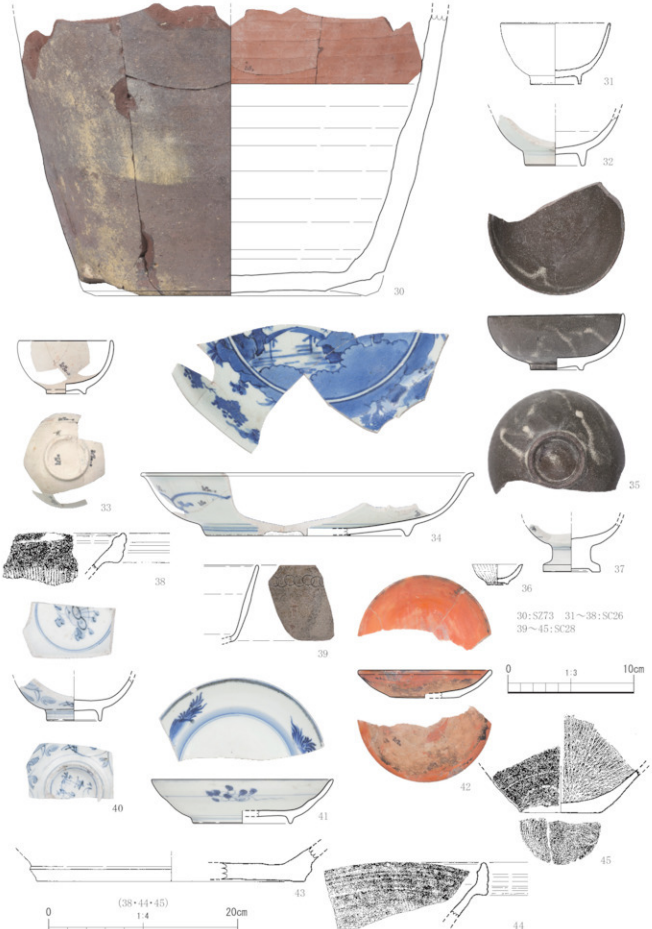


第43図　渋谷氏井戸16・70出土陶磁器実測図（S＝1/3）



第44図　渋谷氏井戸70、池状遺構73出土陶磁器実測図（S＝1/3・1/4）

土坑127・161（第33図）　土坑35の南東側に位置する。検出時の状況から溝状遺構6と土坑127が161を切っていることがわかっている。土坑127は2.98m×1.74mの不整楕円形プランで検出面からの深さは0.82mを測る。土坑161は各遺構との切り合い関係や一部が調査区外に及ぶため、全体の形状は不明だが長さは6.12m以上、幅は3.3m以上で検出面からの深さは0.78m～



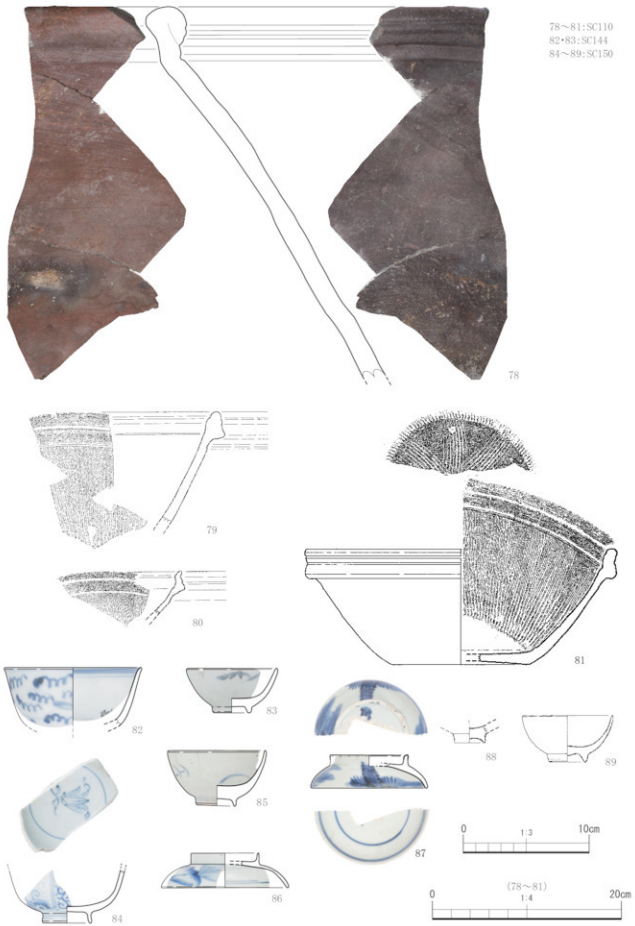
第45図　渋谷氏池状遺構73、廃棄土坑26・28出土陶磁器実測図（S＝1/3・1/4）

第46図　渋谷氏廃棄土坑110出土陶磁器実測図①（S＝1/3）

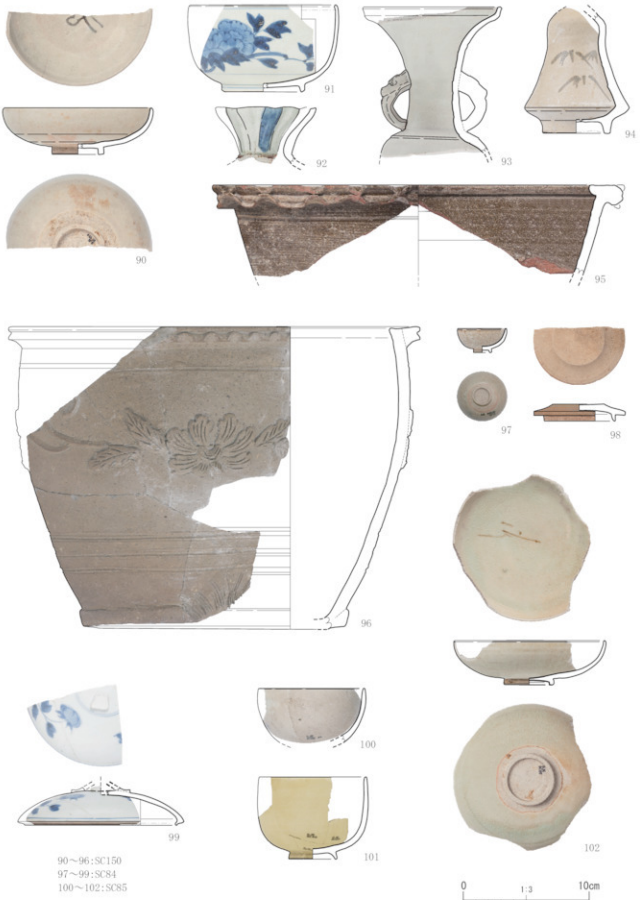
第47図　渋谷氏廃棄土坑110出土陶磁器実測図②（S=1/3）

1.12m を測る。床面には不整形な掘り込みが多く見られため、いくつかの遺構の切り合いの結果形成された遺構の可能性もある。両遺構とも埋土には地山の土が多く混入していることから、掘削後埋め戻しが行われた可能性も考えられる。

土坑 131（第 36 図）　井戸 16 の北側に位置し、池状遺構 73 に北側部分を切られている。不整円形と不整方形が組み合わさったプランを呈し、その規模は 2.28m × 2.12m を測る。検出面からの深さは円形プランのほうは 0.48m、方形プランのほうは 0.26m を測る。



第48図　渋谷氏廃棄土坑110・144・150出土陶磁器実測図（S＝1/3・1/4）



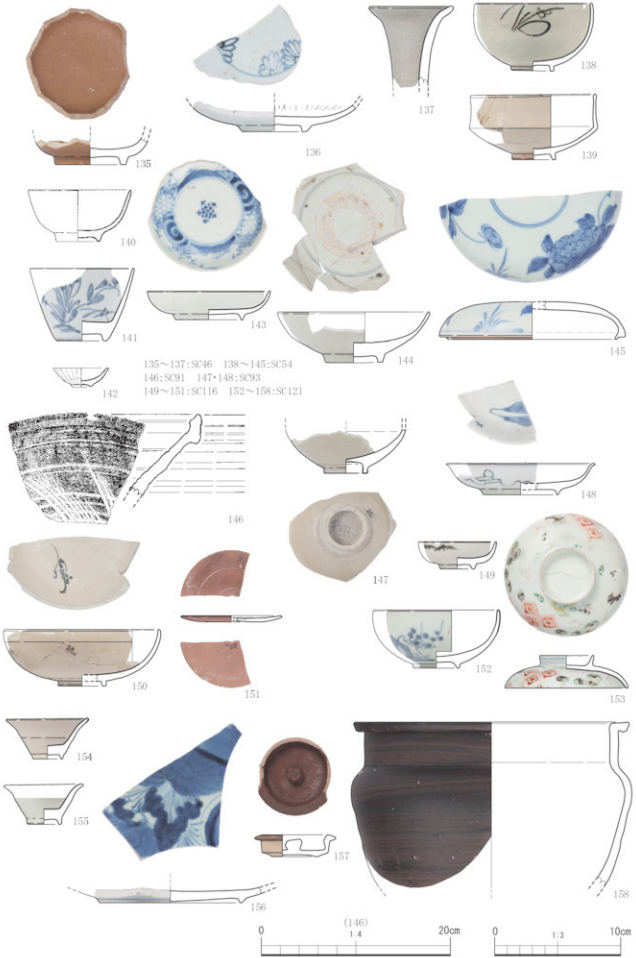
第49図　渋谷氏廃棄土坑150、厠跡84・85出土陶磁器実測図（S＝1/3）

103:SC115　104・105:SC8　106～114:SC34

第50図　渋谷氏埋鉢遺構115、土坑8・34出土陶磁器実測図（S＝1/3・1/4）

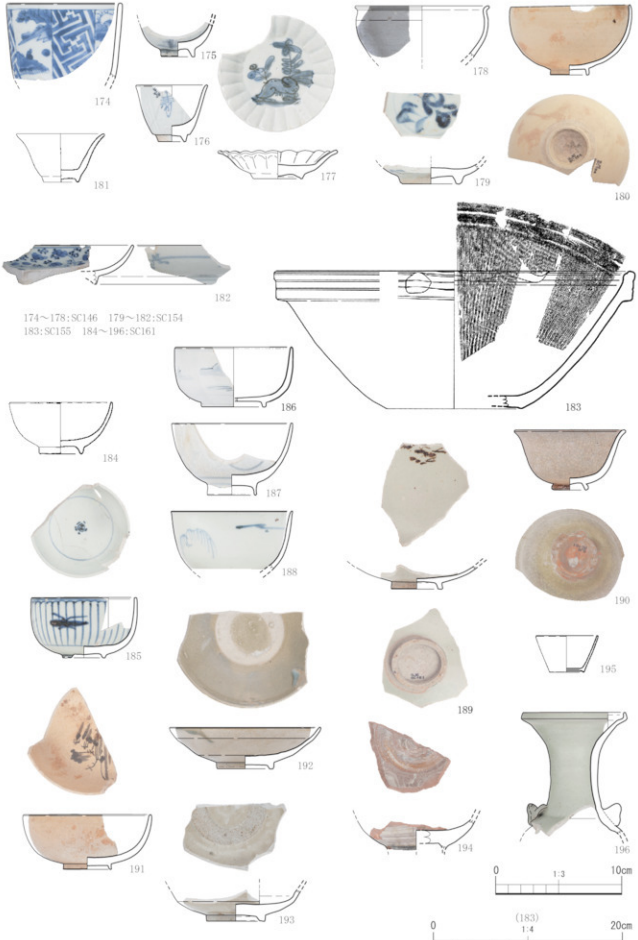
第51図　渋谷氏土坑34出土陶磁器実測図（S＝1/3）

第52図　渋谷氏土坑34・35出土陶磁器実測図（S＝1/3・1/4）



第53図　渋谷氏土坑46･54･91･93･116･121出土陶磁器実測図（S＝1/3･1/4）

第54図　渋谷氏土坑122・127・131・138・146出土陶磁器実測図（S＝1/3・1/4）



第55図　渋谷氏土坑146・154・155・161出土陶磁器実測図（S＝1/3・1/4）

第56図　渋谷氏土坑161・162出土陶磁器実測図（S＝1/3・1/4）

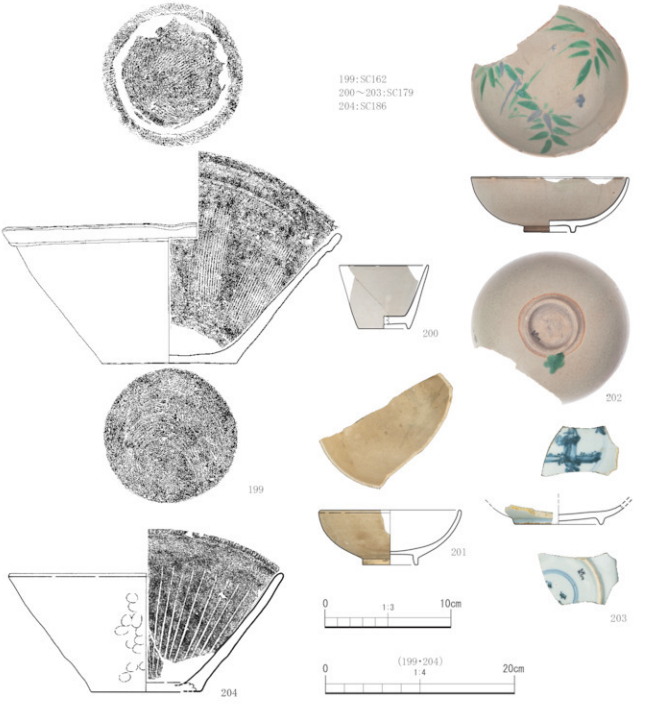
土坑138（第37図）　池状遺構73に西側を、土坑に北側を切られており、全体の形状ははっきりしない。現状では長さ2.38mの不整楕円形プランを呈する。検出面からの深さは0.05mを測る。

土坑140（第38図）　井戸16の東側に接しており、一部を切られているため、全体の形状ははっきりしない。2.12m×1.24mの不整方形プランを呈し、検出面からの深さは0.08mを測る。

土坑146（第39図）　池状遺構73と土坑に北側を切られているため全体の形状ははっきりしない。現状では2.66m×1.96mの不整方形プランを呈し、検出面からの深さは0.09mを測る。

土坑154・155（第15図）　廃棄土坑151と池状遺構73に切られており、155が154を切っていることが確認されている。154は2.50m×2.46mの不整円形プランを呈し、検出面からの深さは1.0mを測る。155は3.52m×1.84mの不整方形プランを呈し、検出面からの深さは0.48mを測る。154の南側から155にかけての床面や壁面には杭列が打ち込まれていた。

土坑162（第40図）　土坑8の北側に位置する。擂鉢が逆位に置かれ、その周囲を甕を打ち欠いた破片で囲んでいる状況が見られた。出土状況の記録後、擂鉢内部を確認したが、何も置かれていなかった。掘り込みは0.56m×0.46mの不整方形プランで検出面からの深さは0.08mを測る。



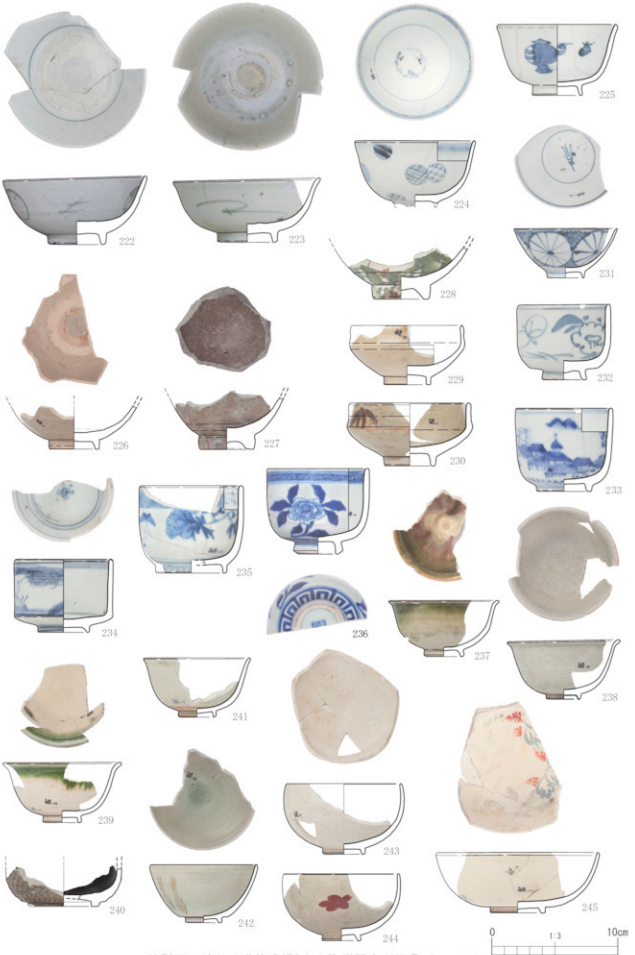
第57図　渋谷氏土坑162・179・186出土陶磁器実測図（S＝1/3・1/4）

土坑 179（第 41 図）　調査区の西端に位置し、北側を廻跡 84・85 に切られており、全体の形状ははっきりしない。1.66m × 0.82m の不整方形プランを呈し、検出面からの深さは 0.58m を測る。

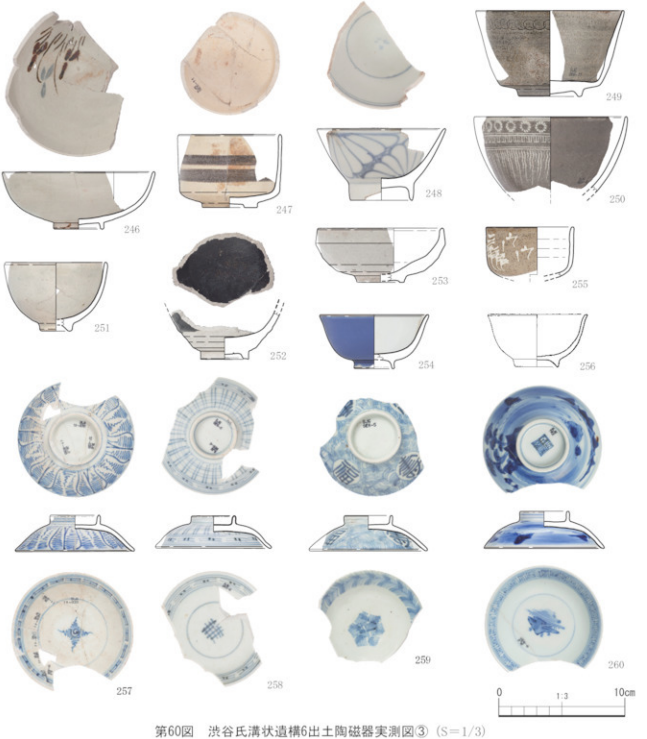
第 8 項　溝状遺構（第 5 図）

渋谷氏敷地内の溝状遺構は溝状遺構 83 と調査区中央南西側の地山の検出されなかった範囲

第58図　渋谷氏溝状遺構6出土陶磁器実測図①（S＝1/3）



第59図　渋谷氏溝状遺構6出土陶磁器実測図②（S＝1/3）



第60図　渋谷氏溝状遺構6出土陶磁器実測図③（S＝1/3）

を除くと 14 条検出されている。その方線は屋敷境の溝状遺構 6 と並行するか直交するものばかりである。ほとんどが小規模で用途等は不明である。本項では溝状遺構 6 の報告を行う。

溝状遺構 6（第 42 図）　調査区中央部よりやや南東部に位置する。調査区の北東部から南西部まで直線的に伸び、南西部の端あたりで北西方向に屈曲し、再び直線的に伸び調査区外まで続く。幅は 3.22m ～ 1.14m を呈し、検出面からの深さは 0.75m ～ 0.18m を測る。土層観察によると数回の掘り返しが確認されている。床面には常時水が湧く状況だった。大量の遺物が埋土

第61図　渋谷氏溝状遺構6出土陶磁器実測図④（S＝1/3）

中から出土しており、佐土原人形片が密集して出土する箇所もあった。本調査区の大半の遺物が本遺構から出土している。このような状況から区画溝であり、廃棄場ともなっていたと考えられる。

第62図　渋谷氏溝状遺構6出土陶磁器実測図⑤（S＝1/3）

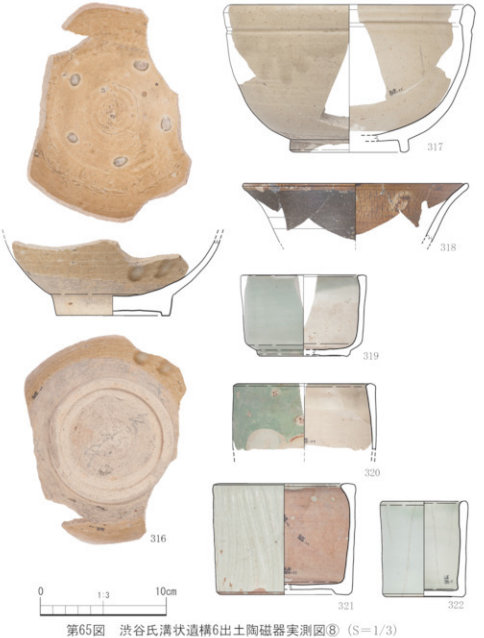
第63図　渋谷氏溝状遺構6出土陶磁器実測図⑥（S＝1/3）

第64図　渋谷氏溝状遺構6出土陶磁器実測図⑦（S＝1/3）

第3節 出土遺物について

第1項　陶磁器（第43図～第63図、第1表～第7表）

1～5は井戸16、6～21は井戸70、22～24は井戸100の出土遺物である。1・3は見込に砂



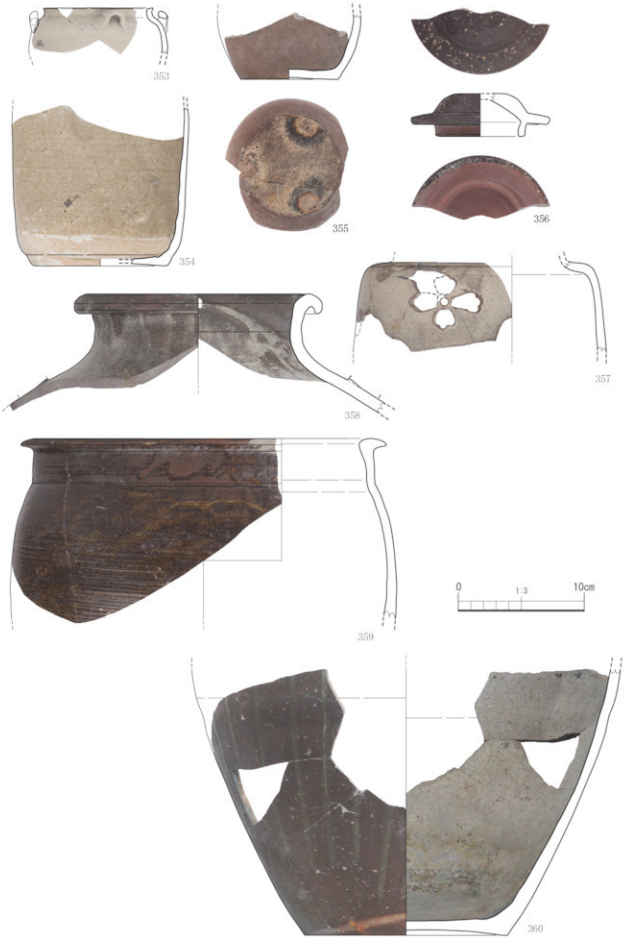
第65図　渋谷氏溝状遺構6出土陶磁器実測図⑧（S＝1/3）

目積み痕が見られる。6は見込に手書き五弁花、高台内面に渦「福」が見られる。8は小杉碗である。9は高台内が渦巻状に削られている。15は高台内面に「(大)明成（化）年製」の銘が見られる。19は火鉢で獅子面の取っ手と表面に龍が描かれている。24は大皿で見込に胎土目積み痕が見られる。25～30は池状遺構73の出土遺物である。27は見込に呉州絵山水文が、28は見込に砂胎土目積み痕が見られる。30は荒焼の鉢である。

31～38は廃棄土坑26、39～45は廃棄土坑28、46～81は廃棄土坑110、82・83は廃棄土坑144、84～96は廃棄土坑150の出土遺物である。33は白薩摩の碗で、高台付近に「千鳥印」が見られる。36は型押し成形の紅皿である。40は高台内に「(大）明成化製」の銘が見られる。42は柿釉の灯明皿である。45は放射状の擂目が見られる肥前の擂鉢である。46は端反碗で外面や見込には墨流し文が見られ、外面に福寿文もみられる。47は内面に砂目積み痕が見られる。49は広東碗で外面に松文が見られる。51は半筒碗で外面には竹文、見込にはコンニャク印判の五弁花が見られる。53は小杉碗である。56は薩摩の磁器で口縁内面に雷文が見られる。57は広東碗蓋である。58～60は端反碗蓋である。61は型押し成形の紅皿である。62は紅皿で外面には笹文が見られる。63は見込が蛇ノ目釉剥ぎが見られる。64は手塩皿である。65は見込に蛇ノ目釉剥ぎでコンニャク印判の五弁花が見られる。68は備前で型押し成形である。71は関西系の灯火具である。73・74は薩摩の土瓶で74は白薩摩である。76は肥前、77は瀬戸美濃の蓮華で

第66図　渋谷氏溝状遺構6出土陶磁器実測図⑨（S＝1/3）

第67図　渋谷氏溝状遺構6出土陶磁器実測図⑩（S＝1/3）



第68図　渋谷氏溝状遺構6出土陶磁器実測図⑪（S＝1/3）

第69図　渋谷氏溝状遺構6出土陶磁器実測図⑫（S＝1/3）

ある。79 ～ 81 は堺の擂鉢である。82 は端反碗である。83 は外面に笹文が見られる。86・87 は広東碗蓋である。88 は小型の磁器の底部に二次加工を加えた「小型円盤」である。90 は内面に鉄絵が見られる。93 は肥前系の仏花器である。94 は外面に笹文の鉄絵が見られる。95・96 は薩摩焼の植木鉢で 96 には外面に花形の突起が見られる。

97 ～ 99 は厠跡 84 の出土遺物である。100 ～ 102 は厠跡 85 の出土遺物である。97 は関西系の小碗で玩具の可能性がある。99 は段重の蓋である。102 は見込に鉄絵が見られる。

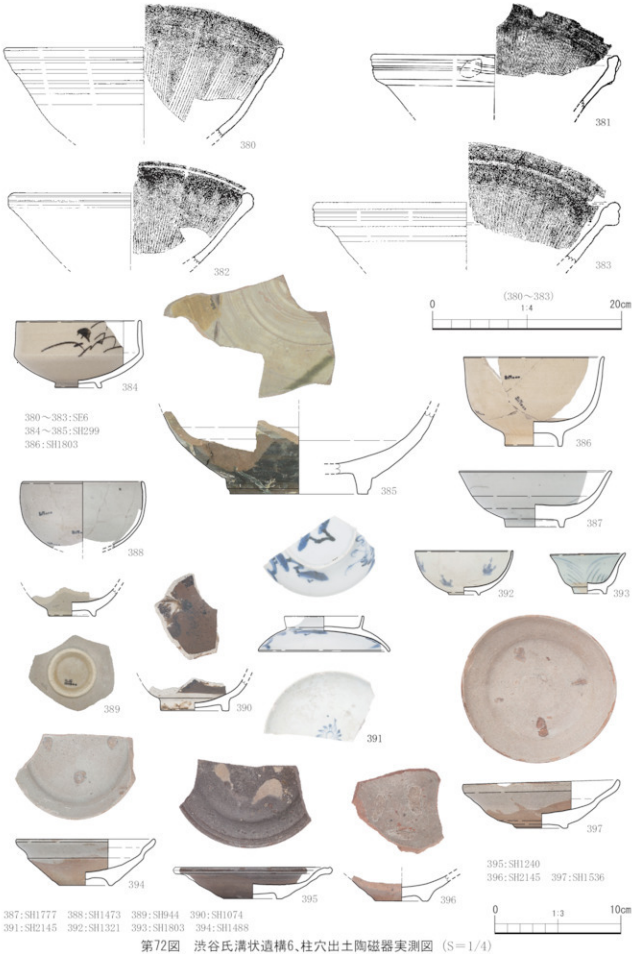
103 は埋鉢遺構の掘り込み部分に埋められていたものである。肥前系の植木鉢で口縁部は打ち欠かれて残っておらず、底部には打ち欠き穿孔の穴が二箇所確認される。

104・105 は土坑 8、106 ～ 128 は土坑 34、129 ～ 134 は土坑 35、135 ～ 137 は土坑 46、138 ～ 145 は土坑 54、146 は土坑 91、147・148 は土坑 93、149 ～ 151 は土坑 116、152 ～ 158 は土坑 121、159・160 は土坑 122、161 ～ 168 は土坑 127、169 は土坑 131、170・171 は土坑 138、172 ～ 178 は土坑 146、

第70図　渋谷氏溝状遺構6出土陶磁器実測図⑬（S＝1/3・1/4）

179～182は土坑154、183は土坑155、184～197は土坑161、198・199は土坑162、200～203は土坑179、204は土坑186の出土遺物である。104は関西系の小碗で玩具の可能性がある。106は内外面に氷裂文が見られる。109は高台内に漆が塗布してある。110は外面に花唐草文、高台内に渦「福」が見られる。114は外面に笹文が見られる。115は外面はコンニャク印判による文様が施されている。117は内野山窯で見込には蛇ノ目釉剥ぎが見られる。120は腰折碗

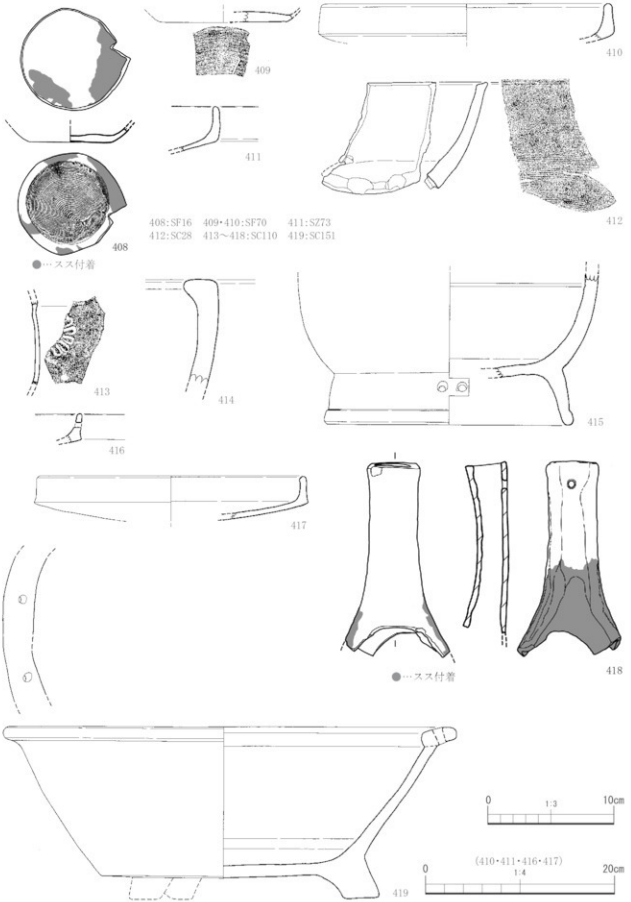
第71図　渋谷氏溝状遺構6出土陶磁器実測図⑭ (S=1/4)



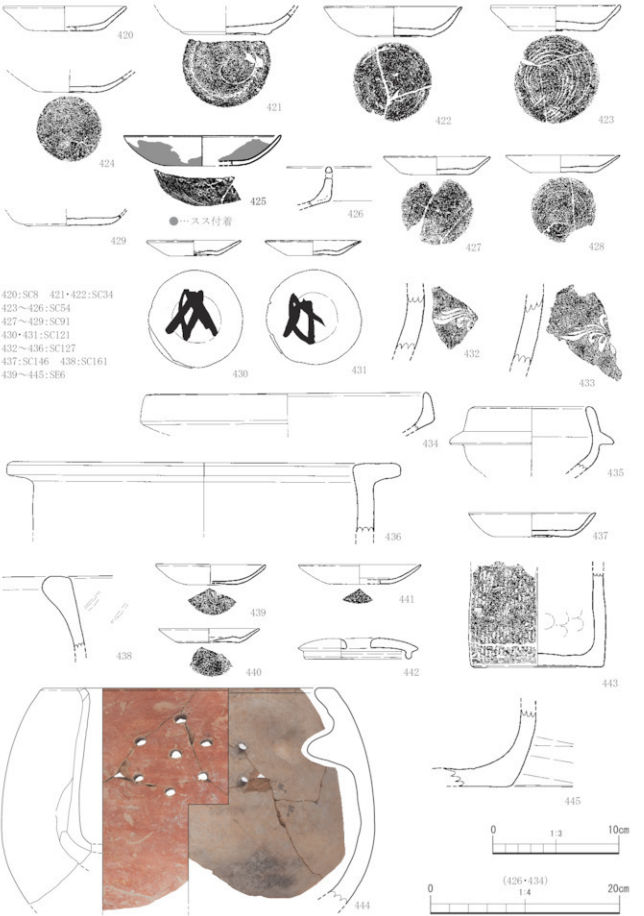
第72図　渋谷氏溝状遺構6、柱穴出土陶磁器実測図（S＝1/4）

第73図　渋谷氏柱穴出土陶磁器実測図（S=1/3）

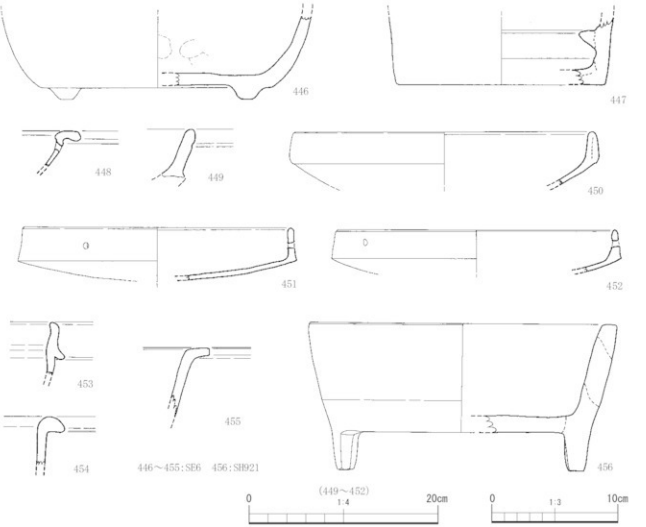
である。122は関西系の灰吹で、外面には色絵が見られるが風化が著しい。123は鬢盥である。125は薩摩の甕である。口縁部下に貼付菊文が見られる。129は高台畳付けに砂目積み痕が見られる。131は見込に手書き五弁花が見られる。132は型打ち成形の角皿である。136は初期伊万里の輪花皿である。139は腰折碗で外面に鉄絵がみられる。142は型押し成形の紅皿である。143は見込に手書き五弁花が見られる。144は見込み蛇ノ目釉剥ぎが見られる。147は高台内面に「や二十」の墨書が見られる。149は外面に笹文が見られる。151は備前の小皿である。



第74図　渋谷氏井戸16・70、廃棄土坑110・151出土土器実測図（S＝1/3）



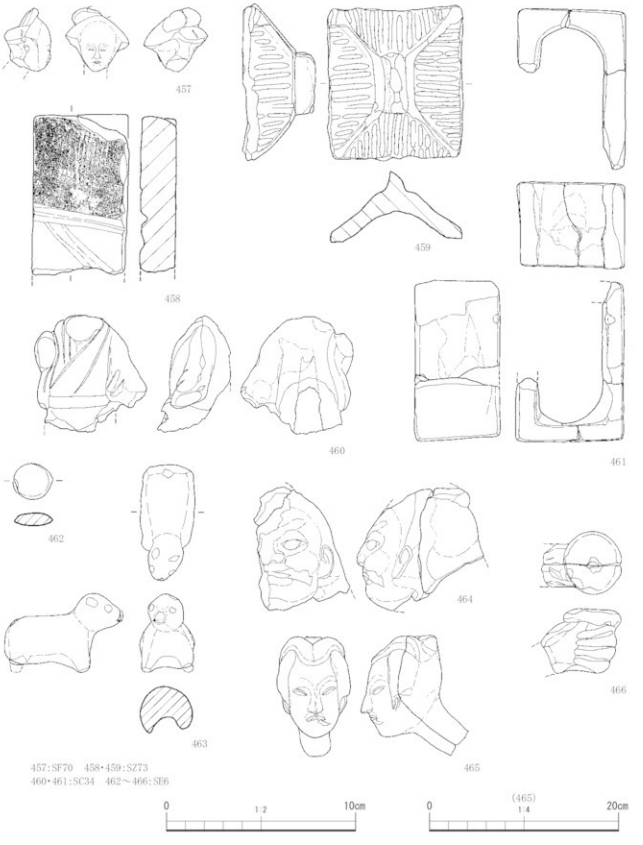
第75図　渋谷氏土坑8・54・91・127・161、溝状遺構6出土土器実測図（S＝1/3）



第76図　渋谷氏溝状遺構6、柱穴出土土器実測図（S＝1/3・1/4）

153は肥前の色絵の蓋である。159は口縁部外面に雨降文が見られる。162は白薩摩の碗である。163は外面に牡丹文が見られる。166は見込に胎土目積み痕が見られる。168は瀬戸美濃の擂鉢である。169は薩摩の擂鉢で口縁部に貝目痕が見られる。173は高台内に「大明」の銘が見られる。174は景徳鎮の青花である。176は外面に縦筋を彫り、寿文が見られる。177は菊花形皿である。180は高台内に墨書が見られる。185は外面に細蓮弁文、見込に手書き五弁花が見られる。191は肥前京焼風陶器で見込に呉須絵山水文が見られる。192・193は見込に蛇ノ目釉剥ぎが見られる。197は見込に砂目積み痕が見られる。198は底部に貝目痕が見られる。199は瀬戸美濃の擂鉢である。202は内外面に色絵が見られる。203は景徳鎮で高台内「年造」の銘が見られる。204は丹波の擂鉢である。

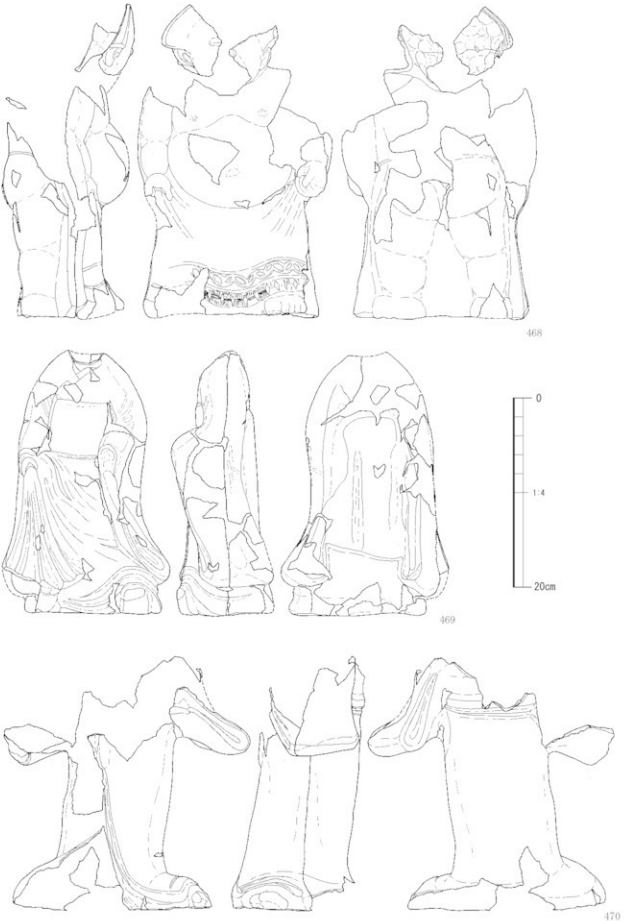
205～383は溝状遺構6の出土遺物である。205～207は呉器手碗である。208～213は端反碗である。208は外面に丸文、見込に鷺文が見られる。209・213はよろけ縞文が見られる。210・211には焼継ぎ痕が見られる。214は筒形碗である。215は望料碗で、No262の蓋とセットの可能性がある。217は外面に二重網目文、見込にコンニャク印判が見られる。220は焼継ぎ痕と外面に寿文が見られる。221は外面に二十格子文が見られる。222・223は見込に蛇ノ目釉剥ぎが見られる。222・224は外面に丸文、223は草花文が見られる。225は焼継ぎ痕と外面



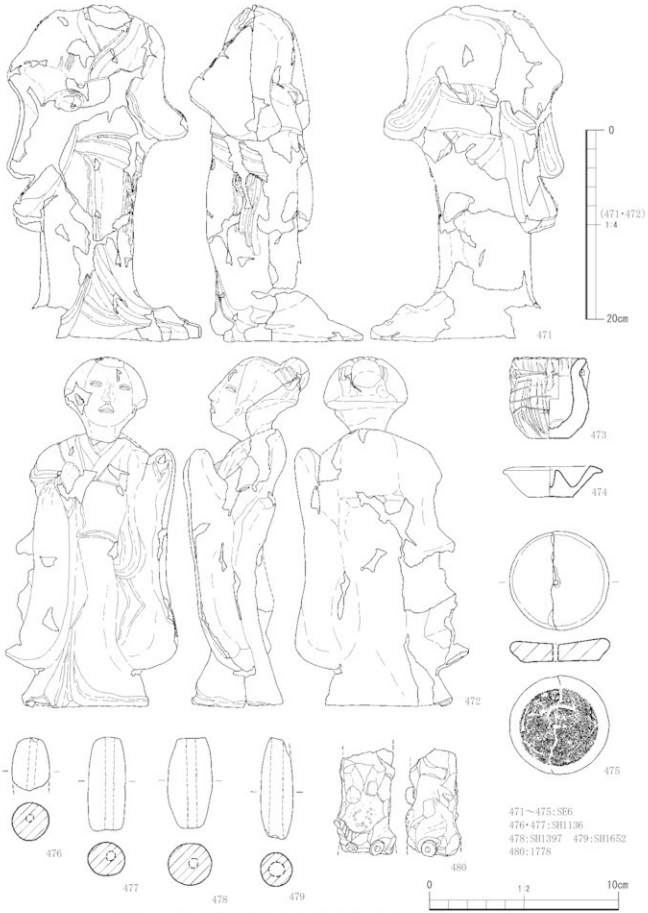
第77図　渋谷氏井戸70・池状遺構73、土坑54、溝状遺構6出土土製品実測図（S＝1/2・1/4）

に宝珠文が見られる。226は内野山窯で見込に蛇ノ目釉剥ぎが見られる。229・230は腰折碗である。230は外面に笹文が見られる。234は筒形碗で見込に手書き五弁花が見られる。237～

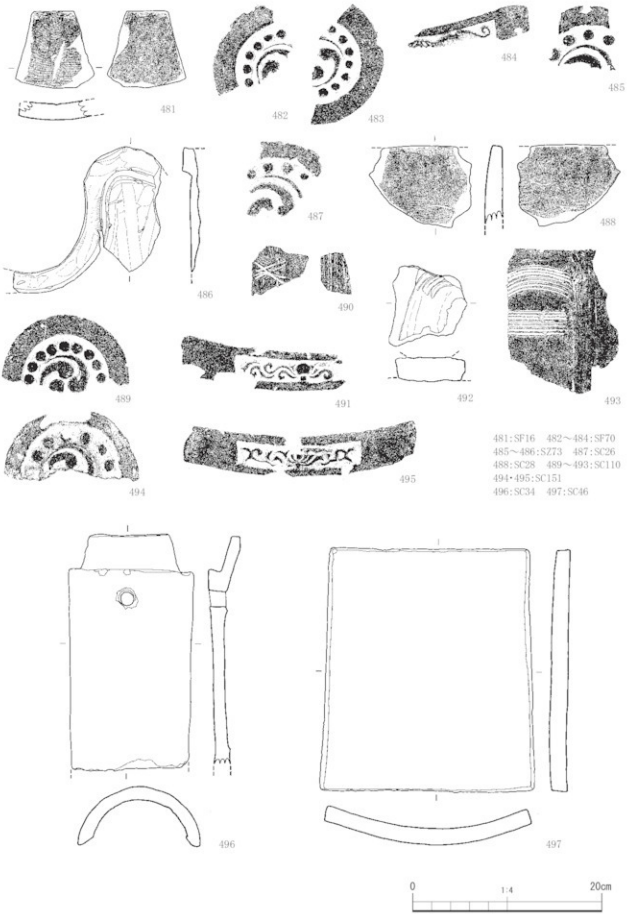
第78図　渋谷氏溝状遺構6出土土製品実測図①（S＝1/4）



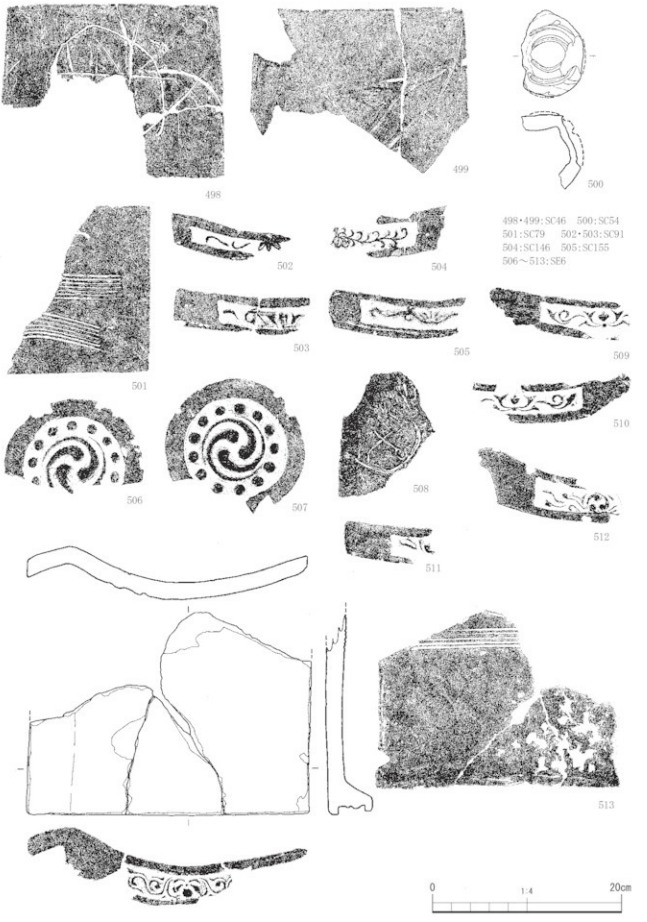
第79図　渋谷氏溝状遺構6出土土製品実測図②（S＝1/4）



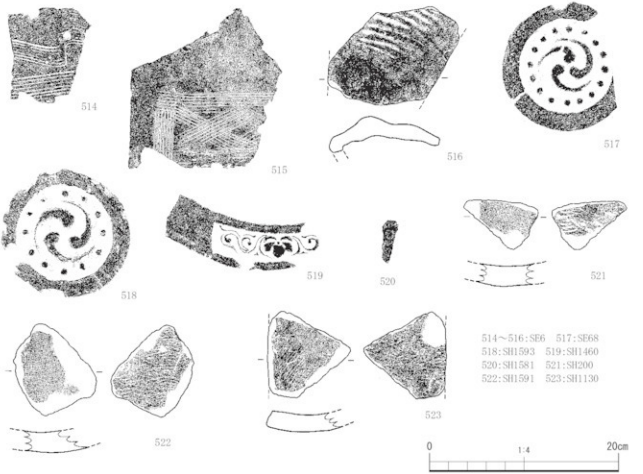
第80図　渋谷氏溝状遺構6、柱穴出土土製品実測図③ (S＝1/2・1/4)



第81図　渋谷氏井戸16・70、池状遺構73、廃棄土坑26・28・110・151、土坑34・46出土瓦実測図（S＝1/4）

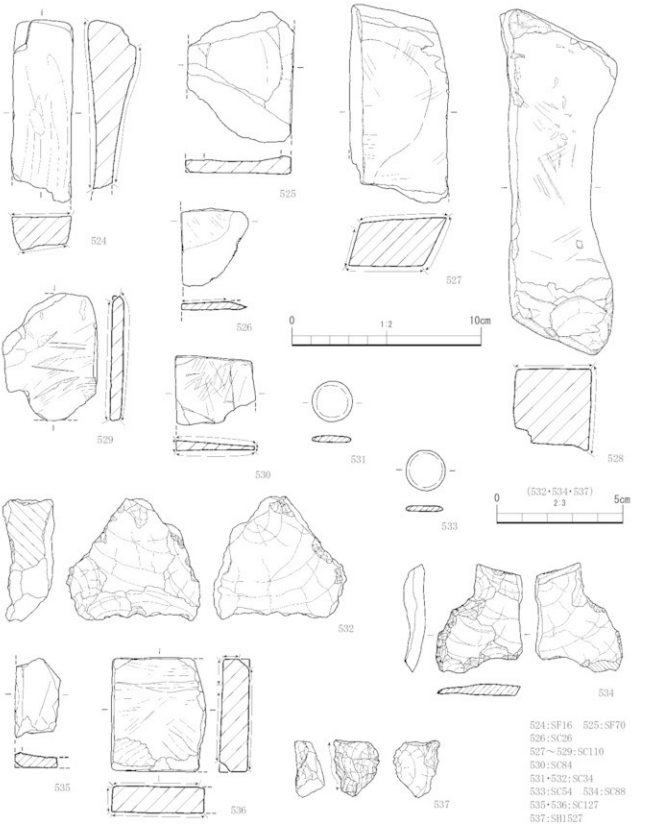


第82図　渋谷氏土坑46・54・79・91・148・155、溝状遺構6出土瓦実測図（S＝1/4）



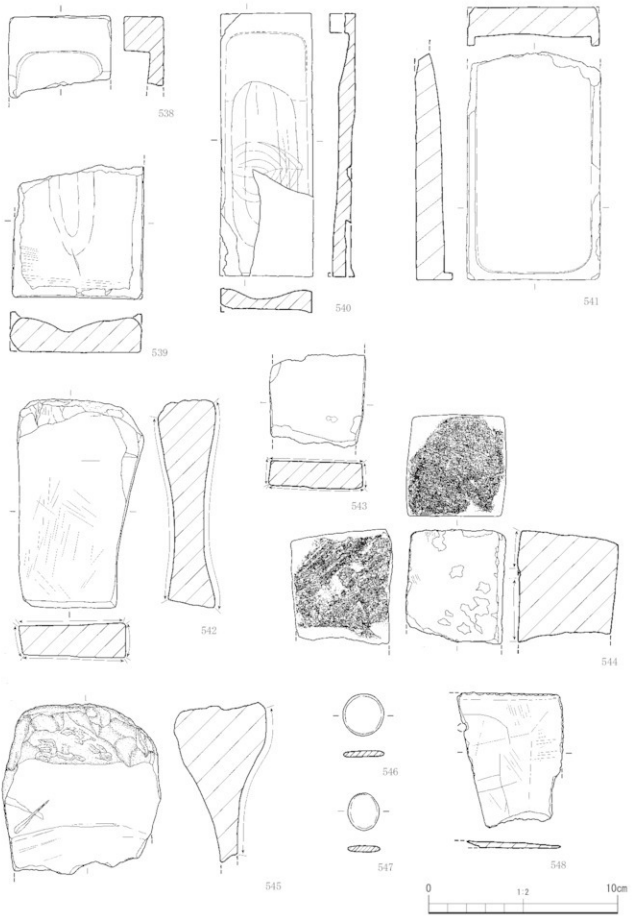
第83図　渋谷氏溝状遺構6、柱穴出土瓦実測図（S＝1/4）

239・241は端反碗である。240は外面に飛びカンナ状の彫り、内面には黒釉が見られる。242は小杉碗である。244・245は京焼色絵陶器碗である。247は半筒形碗で、外面に鉄絵横縞文が見られる。250は白象嵌が見られる堅野系窯の碗である。251は白薩摩の碗である。252は天目碗である。257～260は端反碗の蓋で、257はよろけ縞文、258は二重格子文、259は墨流し文と福寿文、260は山水文が見られる。261は外面青磁、内面染付で見込にはコンニャク印判の五弁花が見られる。267は端反碗蓋で焼継ぎ痕と外面に「吉田」、内面に「太化年製」の銘が見られる。268は型押し成形の鳥の餌入れである。269は図示できなかったが高台内に「大明」の銘がある。274は見込に色絵が見られる。275・276は段重で、275は鷺の流水文、276は呉須と鉄釉の松竹梅文が見られる。277・278は段重の蓋で278には蝶文が見られる279・280は見込に胎土目積み痕が見られる。281は内面に呉須絵山水文が見られる。283・284は見込に蛇ノ目釉剥ぎが見られる。284は内野山窯である。287～289は輪花皿である。289～292は見込に五弁花が見られ、289～291に高台内面に満「福」が見られる。五弁花は289は手書きで290～292はコンニャク印判である。293は手塩皿で内面に折松葉文、高台に雷文が見られる。294～296は手塩皿である。294・295は輪花皿で内面に建物山水文が見られる。296は菊花皿である。298は角皿で内面に蛸唐草文、高台内に「（富貴）長春」の銘が見られる。302～

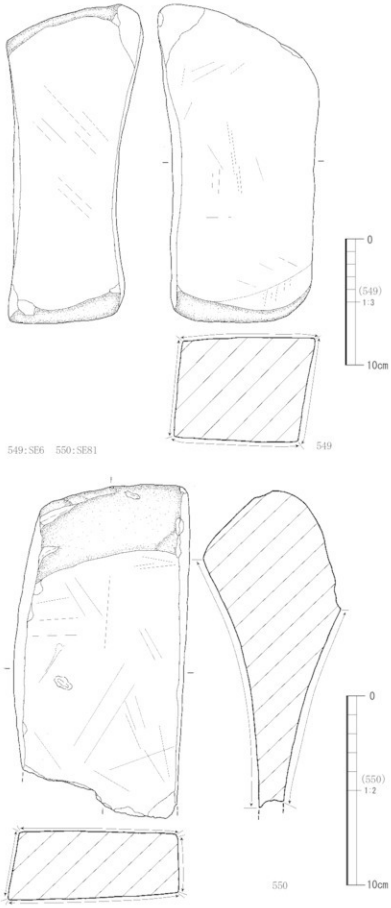


第84図　渋谷氏井戸16・70、廃棄土坑26・110、厠跡84、土坑34・54・88・127・柱穴出土石製品実測図（S＝1/2・1/4）

304は京焼色絵陶器皿である。306は灯明皿で柿釉が見られる。307は龍門司窯系の陶器皿で見込に蛇ノ目釉剥ぎが見られる。310は型押し成形の手塩皿である。316は瀬戸美濃の鉢で内



第85図　渋谷氏溝状遺構6出土石製品実測図（S＝1/2）

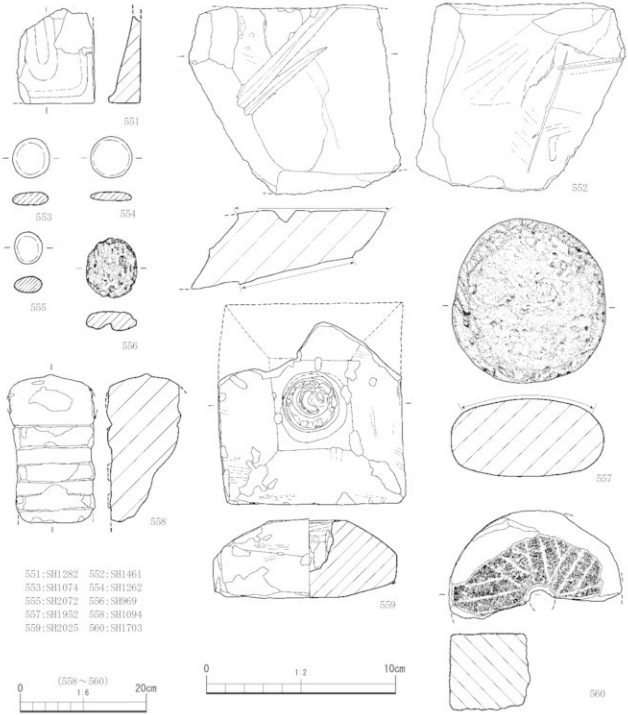


第86図　渋谷氏溝状遺構6・81出土石製品実測図（S＝1/2・1/3）

面に胎土目積み痕、高台内に「鳥枝氏」の墨書、高台周囲にも判別できないが墨書が見られる。318は龍門司系の鉢である。320は色絵の香炉である。321は火入れで外面に縦彫りが見られる。326～330は仏飯具で326～329は肥前系、330は薩摩である。331～334は土瓶である。332は白薩摩で、333・334はいわゆる「黒じょか」である。335は白薩摩の土瓶の蓋である。336はいわゆる「からから」である。338は神酒徳利で外面に蛸唐草文が見られる。339～341は徳利で340は備前のぺこかんで底部に線刻が見られる。342～347は関西系の蓋で348は肥前の蓋である。351～355は袋物で、355は底部に貝目積み痕が見られる。359～363は甕である。364は行平鍋で367はその鍋蓋である。370は大形の鉢で外面に貼付獣面が見られる。371～383は擂鉢で371・372は肥前、374・375は備前、376・377は堺である。

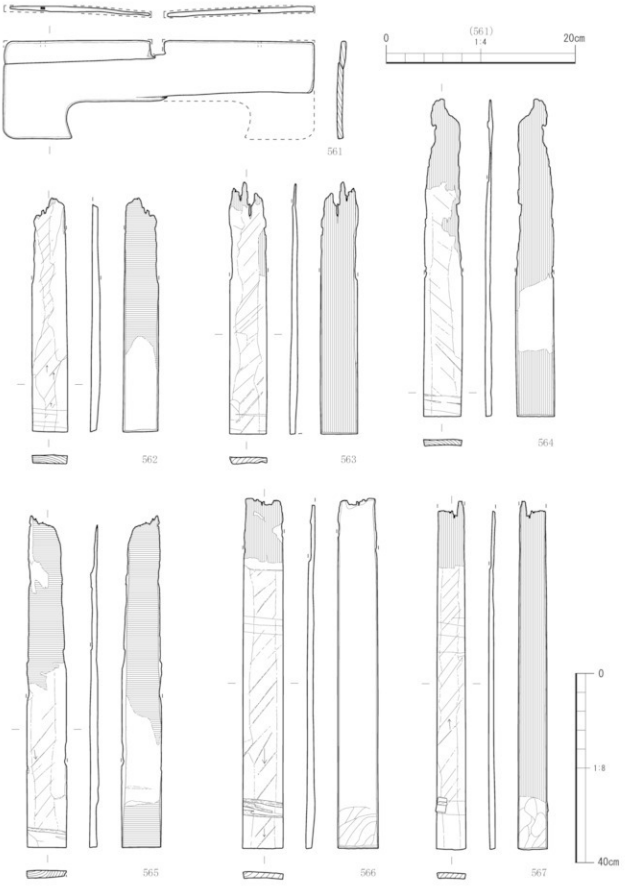
384～407は渋谷氏敷地内で検出された柱穴から出土したものである。384は腰折碗で、外面に鉄絵が見られる。386は呉器手碗である。389は白薩摩の碗で高台付近に「千鳥印」が見られる。391は広東碗の蓋である。392は外面に若松文が見られる。

394・397は見込に胎土目積み痕が見られる。395・396・

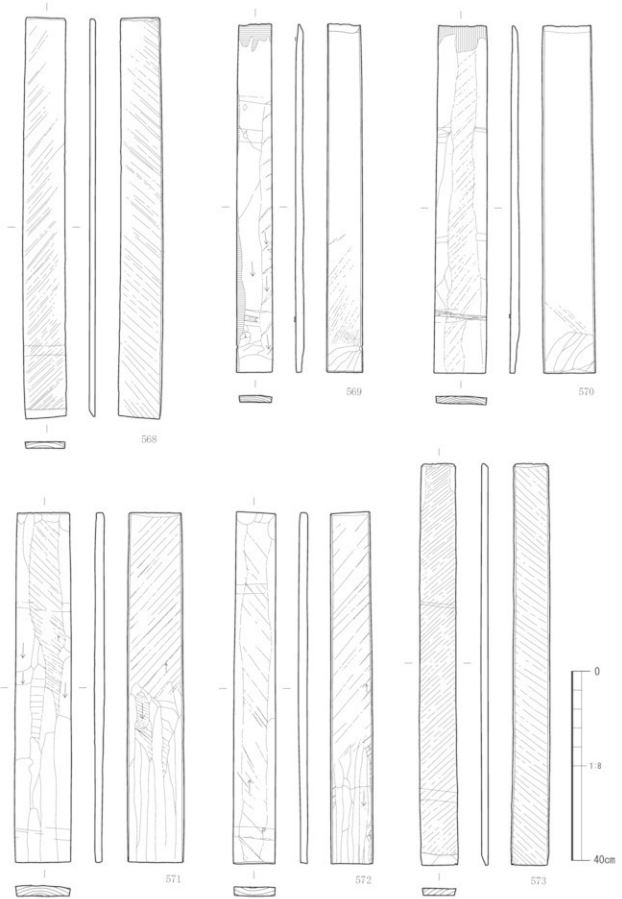


第87図　渋谷氏柱穴出土石製品実測図（S＝1/2・1/6）

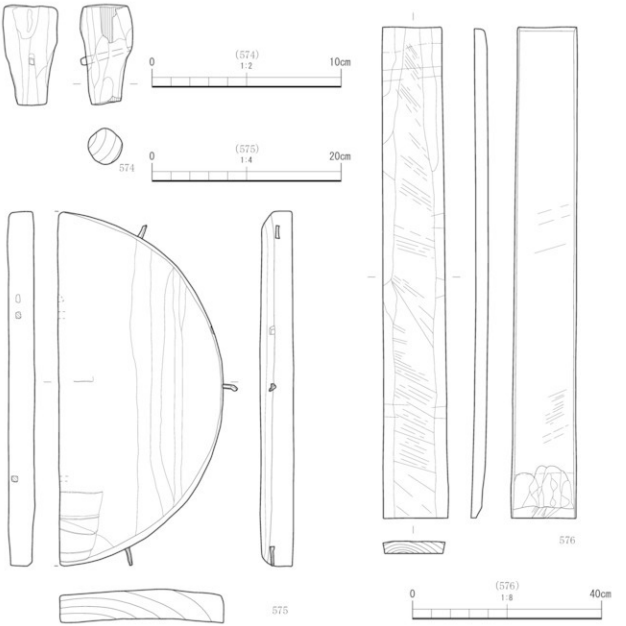
398・399は見込に砂目積み痕が見られる。400見込に蛇ノ目釉剥ぎが見られる。401はコンニャク印判である。403は京焼色絵陶器である。404は景徳鎮の青磁である。405は色絵の灰吹である。407は福建省の輪花皿で高台内に「白」の墨書が見られる。



第88図　渋谷氏井戸16出土木製品実測図①（S＝1/4・1/8）



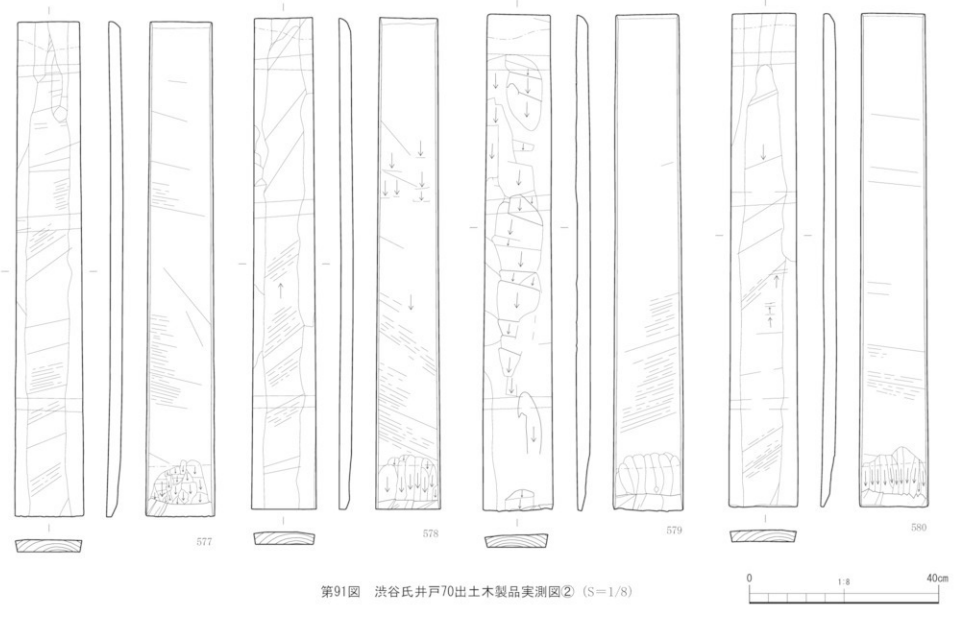
第89図　渋谷氏井戸16出土木製品実測図②（S＝1/8）



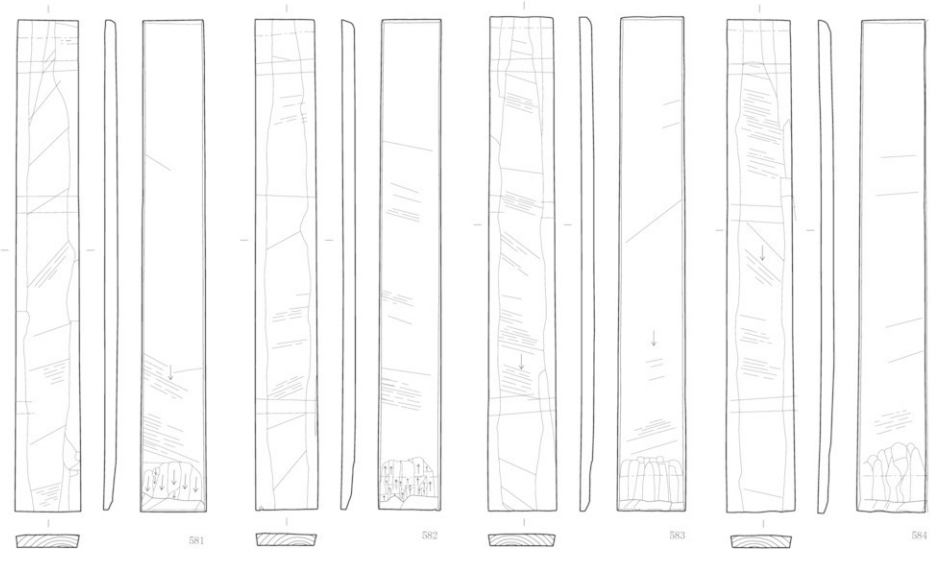
第90図　渋谷氏井戸70出土木製品実測図①（S＝1/2・1/4・1/8）

第2項　土器（第74図～第76図、第11表～第12表）

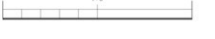
408は井戸16、409・410は井戸70の出土遺物である。411は池状遺構73の出土遺物である。408・409は土師器皿で408には内外面に煤が付着している。409は底部外面に「深草菱吉」の刻印が見られる。410・411は焙烙である。412は廃棄土坑28、413～418は廃棄土坑110、419は廃棄土坑151の出土遺物である。412は火鉢である。413は用途不明で外面に菊文と煤の付着が見られる。414・415・419は火鉢である。416～418は焙烙である。418はいわゆるゴマ煎りである。420は土坑8、421・422は土坑34、423～426は土坑54、427～429は土坑91、430～431は土坑121、432～436は土坑127、437は土坑146、438は土坑161の出土遺物である。420～425、427～431は土師器皿である。425は内外面に煤が付着している。430・431は土師器皿で底部外面に「中」の墨書が見られる。432・433は瓦質の鉢で外面に刻印の模様が見られる。434は焙烙、

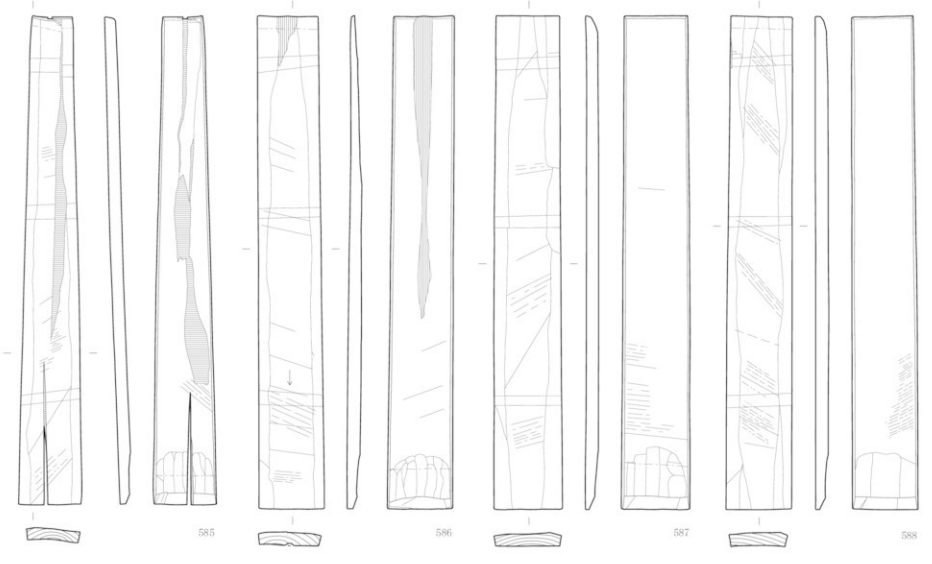


第91図　渋谷氏井戸70出土木製品実測図②（S＝1/8）

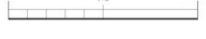


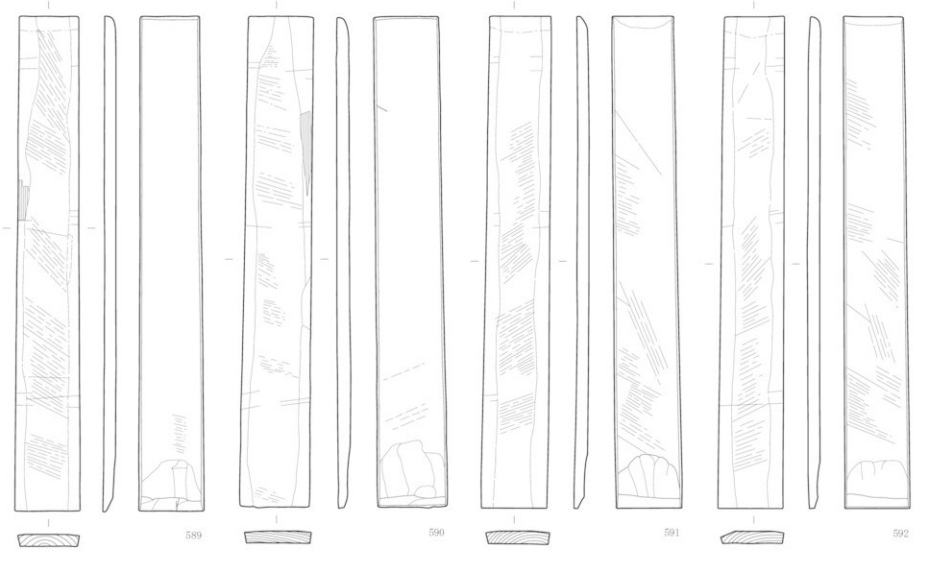
第92図　渋谷氏井戸70出土木製品実測図③（S＝1/8）



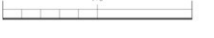


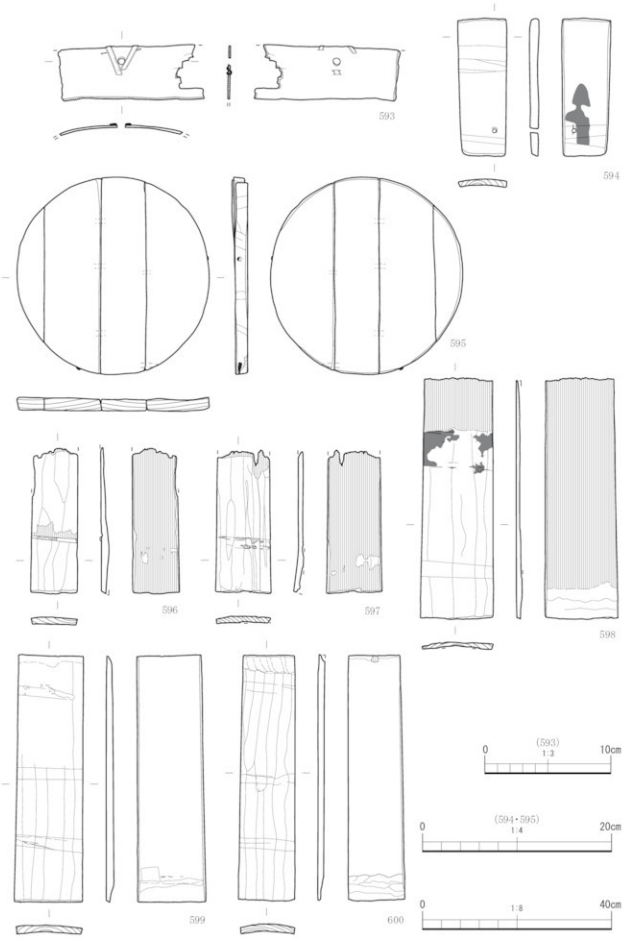
第93図　渋谷氏井戸70出土木製品実測図④（S＝1/8）



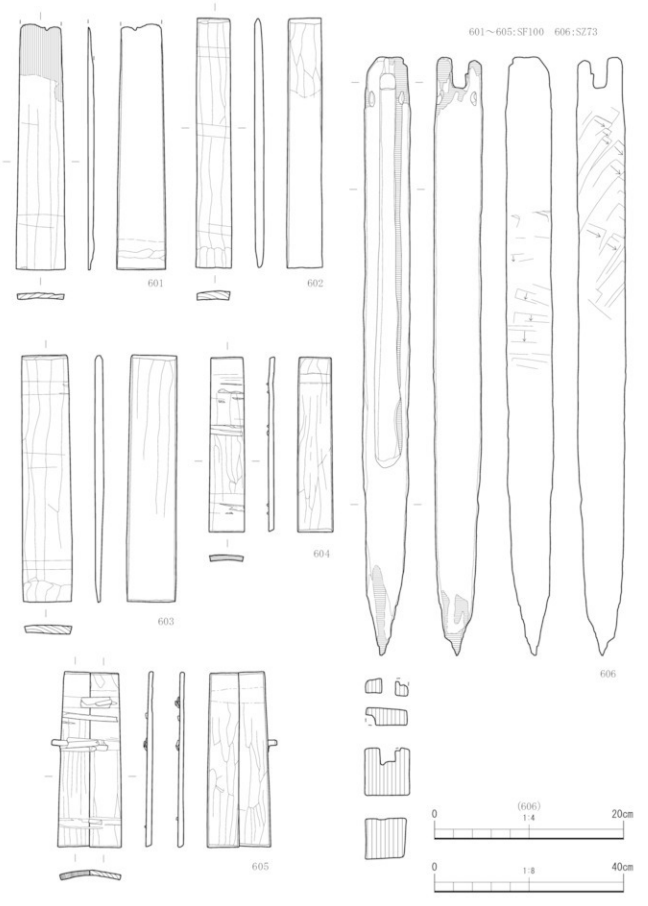


第94図　渋谷氏井戸70出土木製品実測図⑤（S＝1/8）

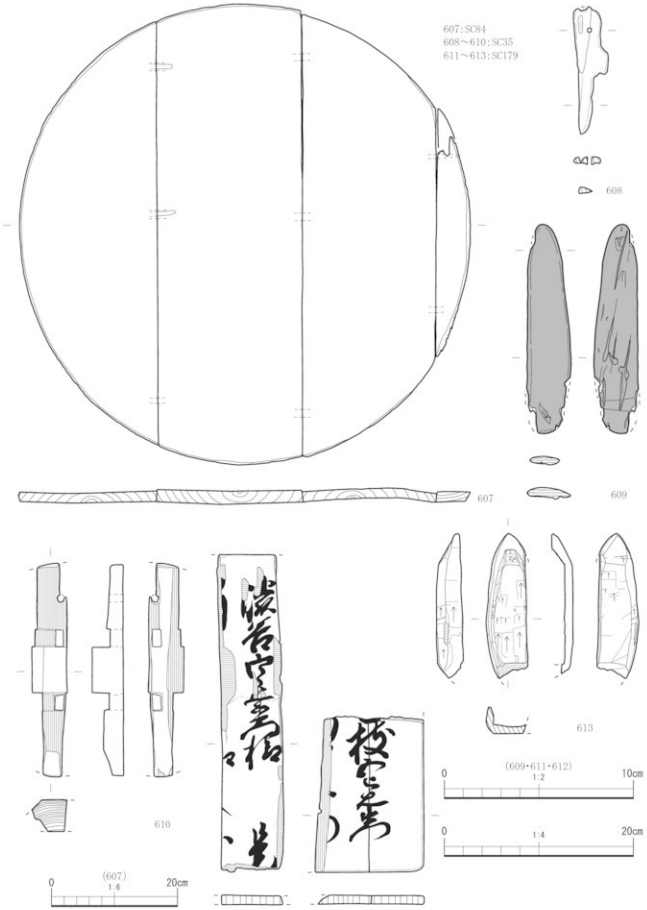




第95図　渋谷氏井戸100出土木製品実測図（S＝1/3・1/4・1/8）

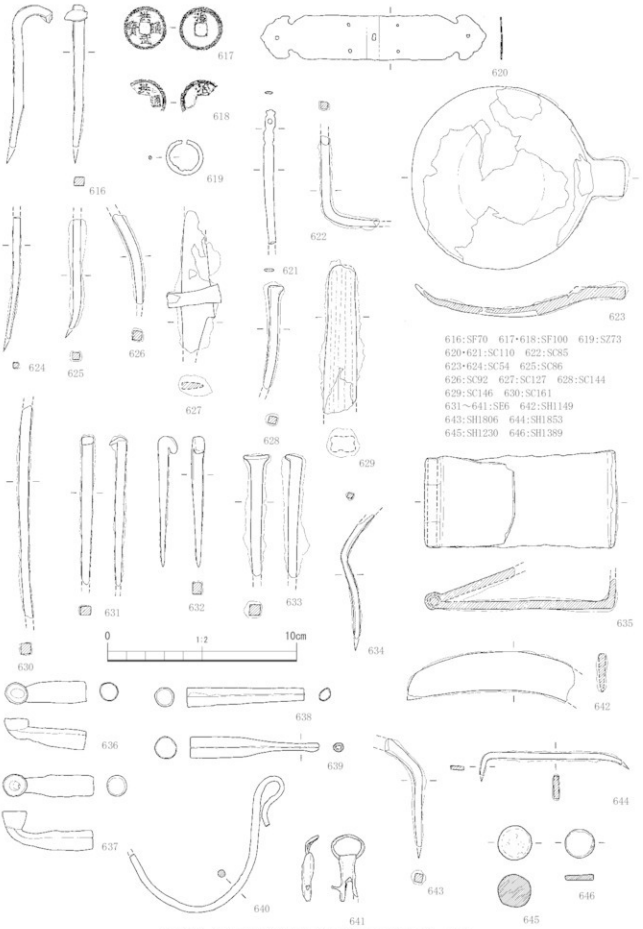


第96図　渋谷氏井戸100、池状遺構73出土木製品実測図（S＝1/4・1/8）

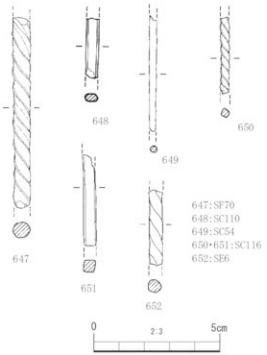


第97図　渋谷氏厠跡84、土坑35・179出土木製品実測図（S＝1/2・1/4・1/6）

第98図　渋谷氏状遺構6出土木製品実測図（S＝1/4）



第99図　渋谷氏敷地内出土金属製品実測図（S＝1/2）



第100図　渋谷氏敷地内出土ガラス製品実測図 (S=2/3)

435は瓦質の羽釜、436は瓦質の植木鉢、437は土師器皿、438は火鉢である。439～455は溝状遺構6の出土遺物である。439～441は土師器皿である。442は瓦質の蓋である。443は火入れ、444は焜炉、445・446は火鉢、447は七輪である。448～452は焙烙である。453は瓦質の羽釜、454・455は瓦質の植木鉢である。456は渋谷氏敷地内柱穴から出土した瓦質の火鉢である。

第3項　土製品（第77図～第80図、第13表）

457は井戸70から出土した人形の頭部である。458・459は池状遺構73の出土遺物である。458は不明土製品で砥石のような溝が見られる。459は箱庭道具である。460・461は土坑34の出土遺物である。460は人形で手ぐすねで作られており、原型と考えられる。461は焜炉の部品である。462～475は溝状遺構6の出土遺物である。463は犬型の人形である。464～472は前後の型を合わせて作ったいわゆる佐土原人形と考えられる。ほとんどが一箇所からまとまって出土した。467はその大きさが特に目立つ。469は他の佐土原人形には見られない底の部分まで粘土があることが特徴的である。473はミニチュア土器で玩具の可能性がある。474・475は乗燭である。476～480は渋谷氏敷地内柱穴の出土遺物である。476～479は土錘である。480は龍頭の瓦質の土製品で飾り瓦の部品の可能性がある。

第4項　瓦（第81図～第83図）

481は井戸16、482～484は井戸70の出土遺物である。481は赤褐色を呈し外面に布痕、内面に青海波紋の叩き痕をもつ朝鮮半島の造瓦技術の系譜を引く平瓦である。482・483は軒丸瓦、484は軒平瓦である。485・486は池状遺構73から出土した。486は飾り瓦の破片である。487は廃棄土坑26、488は廃棄土坑28、489～493は廃棄土坑110、494・495は廃棄土坑151から出土した。490は内面に焼成後の線刻が見られる。492は鬼瓦の破片である。493は櫛描き文が見られる。496は土坑34、497～499は土坑46、500は土坑54、501は土坑79、502・503は土坑91、504は土坑146、505は土坑155の出土遺物である。498と499には焼成前の線刻が見られる。500は鯱瓦の目玉と考えられる。501は櫛描き文のある平瓦である。502～505は軒平瓦である。506～516は溝状遺構6の出土遺物である。508は内面に「⊗」の焼成前線刻がある丸瓦である。512・513は軒桟瓦である。514・515は櫛描き文が見られる。516は鯱瓦の一部と考えられる。517は溝状遺構68の出土遺物である。518～523は渋谷氏敷地内柱穴の出土遺物である。520は瓦の破片で菊文の印刻が見られる。521～523は481・488と同

様、朝鮮半島の造瓦技術の系譜を引くとされる平瓦である。

第5項　石製品（第84図～第87図、第14表～第15表）

524は井戸16から出土した砥石である。525は井戸70から出土した硯である。526～530は砥石である。526は廃棄土坑26、527～529は廃棄土坑110、530は厠跡84の出土遺物である。531は碁石、532は火打石で土坑34の出土遺物である。533は土坑54から出土した碁石である。534は土坑88から出土した火打石である。535・536は土坑127から出土した硯と砥石である。537は柱穴から出土した火打石である。538～549は溝状遺構6の出土遺物である。538～541は硯で540は墨を擦る面に木の葉のような線刻が見られる。542～545・549は砥石である。546・547は碁石である。548は頁岩製の不明石製品で穿孔が見られる。550は溝状遺構81から出土した砥石である。551～560は渋谷氏敷地内の柱穴から出土した。551は硯で、552は砥石、553～555は碁石、556・557は軽石製品である。558は相輪、559は火輪、560は石臼でこれらは3者とも柱穴の礎石に転用されていたものである。

第6項　木製品（第88図～第98図、第16表～第17表）

561～573は井戸16、574～592は井戸70、593～605は井戸100から出土した。561は脚板である。562～573は井戸枠の板材である。特に1番上の部材は風蝕が著しい状況であった。574は栓、575は組み合わせ式の丸板である。576～592は井戸枠の最深部の板材である。どの井戸のものより厚く大きなものであった。593は曲げ物である。594は桶の板材である。595は組み合わせ式の丸板である。596～605は井戸枠の板材である。606は池状遺構73から出土した杭である。表面に加工や穴が開いており転用品と考えられる。607は厠跡84で検出された桶の底面である。608～610は土坑35から出土した加工部材で、609は漆が塗布してある。611～613は土坑179から出土した。611・612は木札で611には墨書で「渋谷宇衛門様」、612は「○枝五郎衛門（改行）　○…○（様？）」と書かれている。他にも文字は見られるが、解読できなかった。613は舟形の木製品である。614・615は溝状遺構6から出土した。

第7項　金属製品（第99図、第19表）

616は井戸70から出土した釘である。617・618は井戸100から出土している銅銭の洪武通宝で、いわゆる「加治木銭」である。617は出土した時点では銀色を呈していた。619は池状遺構73から出土した環状の銅製品である。620・621は廃棄土坑110から出土した。両者とも銅製品で620は飾り金具、621は簪である。622は厠跡85から出土した鉄釘である。623・624は土坑54、625は土坑86、626は土坑92、627は土坑127、628は土坑144、629は土坑146、630は土坑161から出土した。623は灯明具、624～626・628・630は鉄釘、627は鉄製の刀子、629は筒形の鉄製品である。631～641は溝状遺構6から出土した。631～634は鉄釘である。635は鉄製の蝶番である。636～639はキセルである。640は銅製の吊り金具である。641は銅製の留金具である。642～646は渋谷氏敷地内の柱穴から出土した。642は鉄製の鎌、643は鉄釘、644は鉄製の錠、645は鉛製の火縄銃の玉である。646は円板状の鉛製品である。

第101図　渋谷氏敷地内埋め立て範囲上面検出廃棄土坑80実測図（S=1／30）

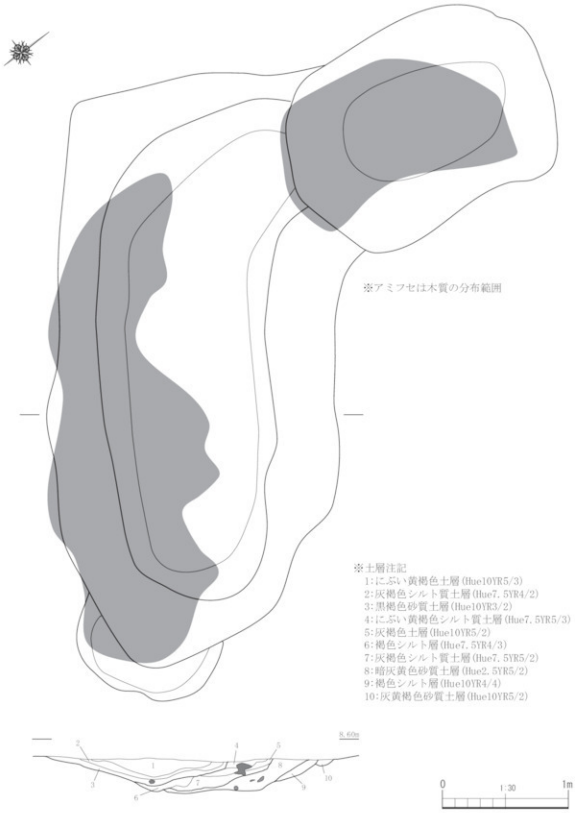
第８項　ガラス製品（第100図、第22表）

647～652は簪である。647は井戸70、648は廃棄土坑110、649は土坑54、650・651は土坑116、652は溝状遺構６から出土している。647・650・652は螺旋状の捻りが見られる。

第４節 渋谷氏敷地内埋め立て範囲について

第１項　埋め立て土の上面で検出された遺構について

渋谷氏の敷地内にあたる調査区中央南西側は当初地山の黄灰色土が露出しているものと考えていた。しかし溝状遺構の６の東側の立ち上がりがはっきりしないこと、遺構密度が極端に低いことから現状南西側で見られる遺構検出面は地山ではないという認識を持つこととなった。このあたりは遺構検出を行う度に遺物の混入が確認されたため遺物包含層が残存している可能性を考え、地山確認のためのトレンチを設定したところ、地山の黒色粘土層まで0.8m以上黄灰色土が堆積していたことがわかった。さらに平面的にも地山の黒色粘土とこの黄灰色土との明瞭な境目を見つけることができた。このような状況から調査区南西側は大きく埋め立てが行われていることが判明したのでバックホウによってこの埋め立て土を除去し、その下にある遺



第102図　渋谷氏敷地内埋め立て範囲上面検出廃棄土坑82実測図（S=1／30）

構の調査を行うこととした。

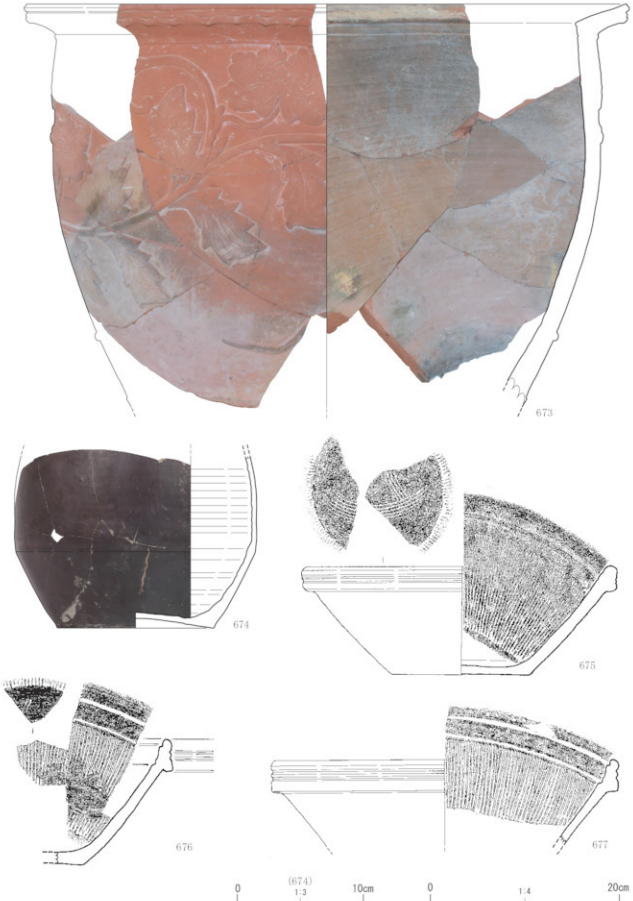
本項では埋め立て土の上面で検出された遺構について報告を行うが、これらの遺構は検出時には平面プランは明瞭に確認できたが、遺構の床面については不明瞭な状況であったため、埋

第103図　渋谷氏敷地内埋め立て範囲上面検出廃棄土坑80出土陶磁器実測図①（S＝1/3）

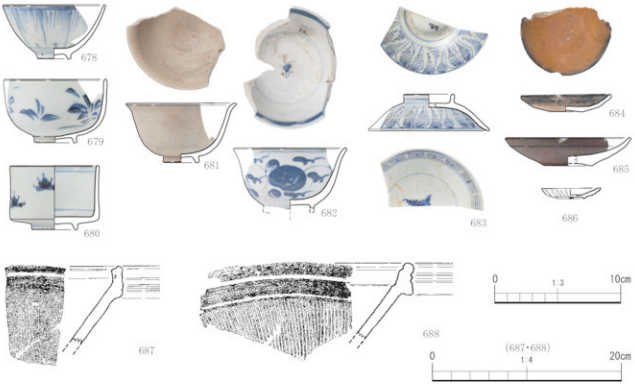
め立て土の中の遺物が混入している可能性がある。

廃棄土坑 80（第 101 図）　調査区南西側の溝状遺構 6 が切れる部分に位置する。4.32m × 3.2m の不整形な三日月のようなプランを呈する。検出面からの深さは 0.34 ～ 0.22m を測る。検出時から木質が広く分布する範囲が確認され、埋土中にも多くの木製品が見られた。

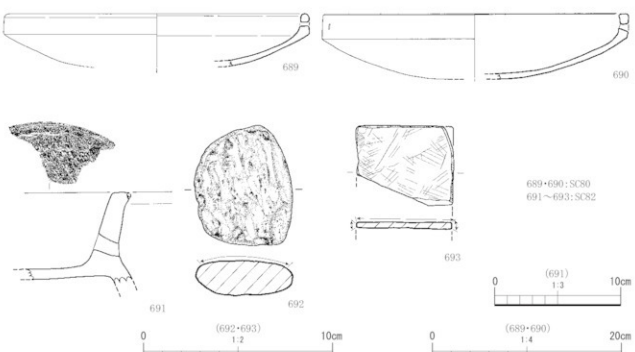
第104図　渋谷氏敷地内埋め立て範囲上面検出廃棄土坑80出土陶磁器実測図②（S＝1/3）



第105図　渋谷氏敷地内埋め立て範囲上面検出廃棄土坑80出土陶磁器実測図③（S＝1/3・1/4）

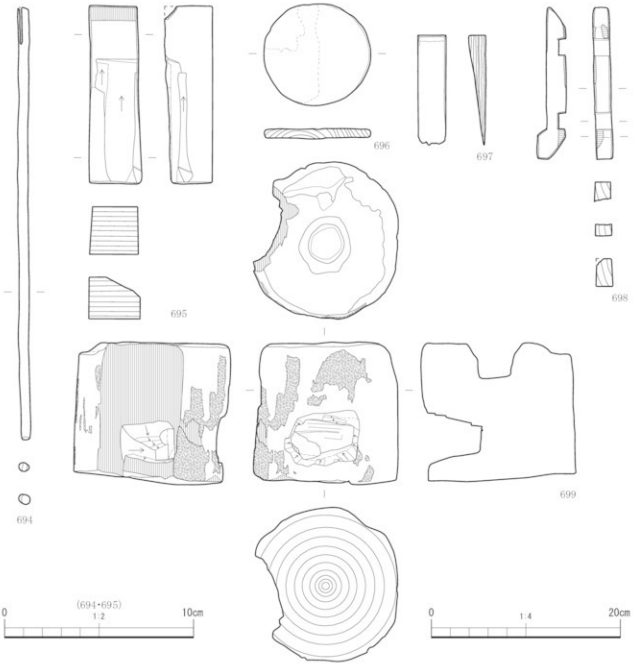


第106図　渋谷氏敷地内埋め立て範囲上面検出廃棄土坑82出土陶磁器実測図（S＝1/3・1/4）



第107図　渋谷氏敷地内埋め立て範囲上面検出廃棄土坑80・82出土土器、石製品実測図（S＝1/2・1/3・1/4）

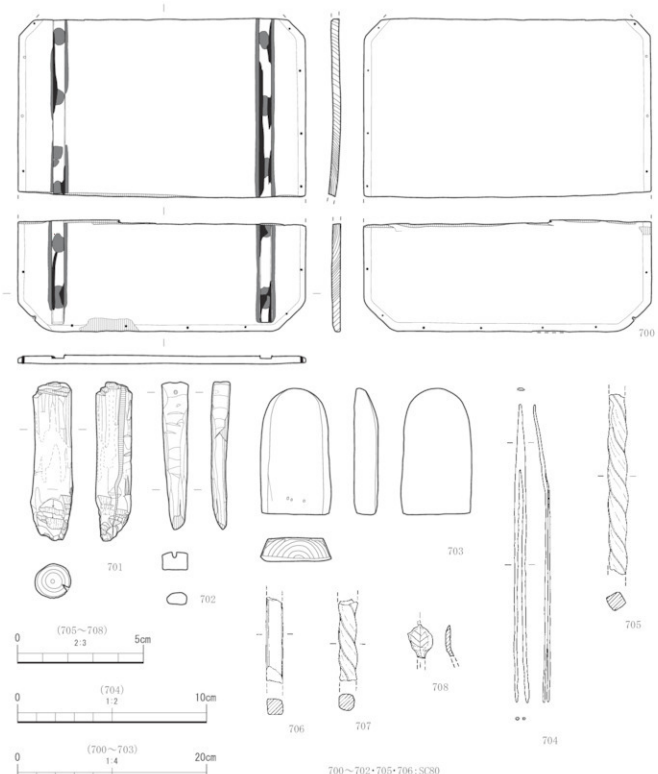
廃棄土坑 82（第 102 図）　廃棄土坑 80 の北側に位置する。6.11m × 2.22m の不整形な三日月のようなプランを呈する。検出面からの深さは 0.34m を測る。北側は一段低くなっている。廃棄土坑 80 と同様に検出時から木質が広く見られる状況であった。



第108図　渋谷氏敷地内埋め立て範囲上面検出廃棄土坑80出土木製品実測図（S=1/2・1/4）

第2項　廃棄土坑80・82の出土遺物について

653～677は廃棄土坑80、678～688は廃棄土坑82から出土した陶磁器である。653は鶏が描かれている。655はいわゆる「くらわんか茶碗」である。656は小杉碗である。657は外面に網干文が見られる。660は外面に建物山水文、内面に山水文が見られる。663は織部の角皿である。665・666は仏飯具である。667・668は燗徳利である。669は蓮華である。670は瀬戸美濃の水甕である。673は琉球産の植木鉢である。675～677は堺の擂鉢である。680は筒形碗である。681・682は端反碗である。683は端反碗蓋で内外面によろけ縞文が見られる。



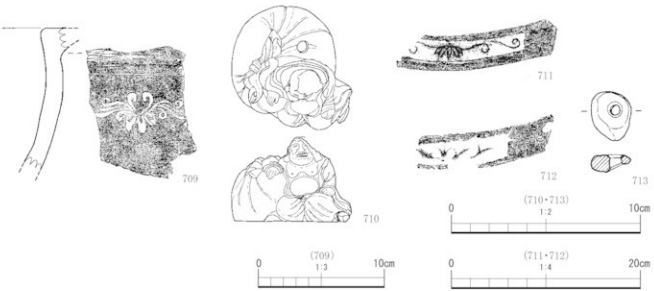
第109図　渋谷氏敷地内埋め立て範囲上面検出廃棄土坑80・82出土木製品、金属製品、ガラス製品
実測図（S＝1/2・1/4）

684は柿釉の灯明皿である。686は型押し成形の紅皿である。687・688は擂鉢である。

689・690は廃棄土坑80から出土した焙烙である。691は廃棄土坑82から瓦質の火鉢である。

692は廃棄土坑80から出土した軽石製品で、693は廃棄土坑82から出土した砥石である。

694～702は廃棄土坑80、703は廃棄土坑82から出土した木製品である。694は箸である。



第110図　渋谷氏敷地内埋め立て土出土土器、土製品、瓦、石製品実測図（S＝1/2・1/3・1/4）

696は丸板、697～698は加工部材である。699は建築部材の一部である。700は膳である。

704は廃棄土坑82から出土した銅製の簪である。705・706は廃棄土坑80、707・708は廃棄土坑82から出土したガラス製品である。705～707は簪で705と707は螺旋状の捻りが見られる。

第3項　埋め立て土の中から出土した遺物について

709は瓦質の植木鉢で外面に刻印で模様がつけられている。710は備前の水滴である。711・712は軒平瓦である。713は穿孔のある石製品である。714～726は木製品である。714は鎌形木製品である。刃部分は黒く塗られている。715は箪笥の引き出しである。青銅の引手がついている。716は角型の差し歯下駄である。717は丸板で桶の底板である。718は角樽の板材である。719～725は大形の桶の板材である。726は小形の桶の板材である。727は銅製の飾り金具である。

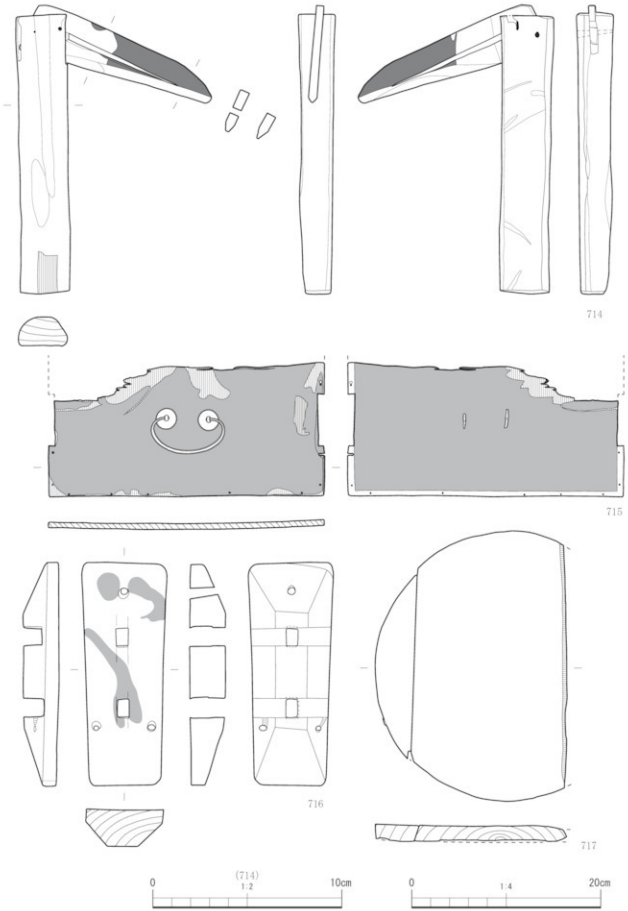
第4項　埋め立て土下位で検出された遺構

土坑173（第113図）　溝状遺構6の屈曲部の北側に位置する。1m×0.62mの不整円形プランを呈し、南西部にテラスがある。検出面からの深さはテラス部分で0.26m、床面で0.38mを測る。

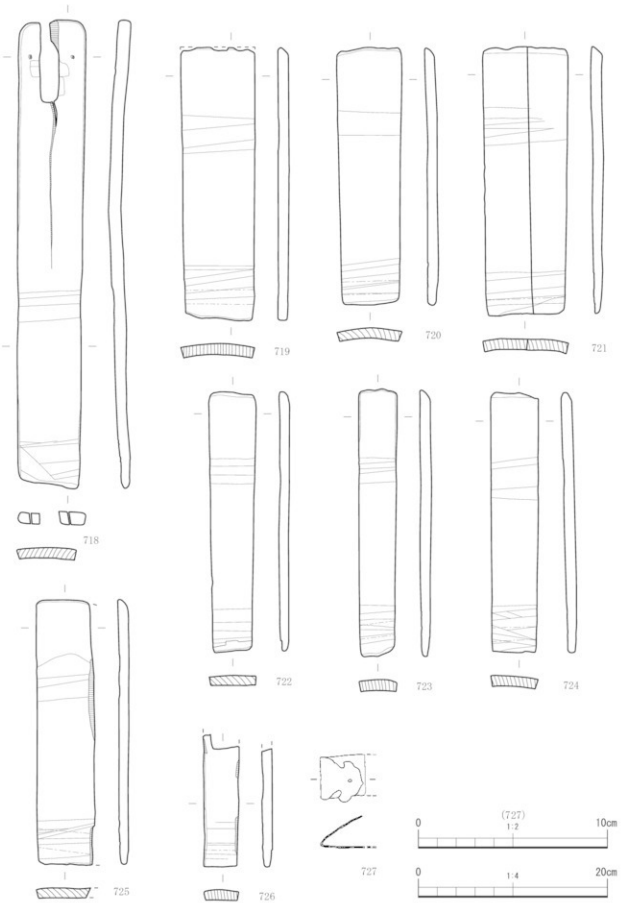
土坑177（第114図）　廃棄土坑80の南東部に位置する。1.94m×1.49mの不整楕円形プランを呈し、東側にテラスがある。検出面からの深さはテラス部分で0.14m、床面で0.32mを測る。

土坑178（第115図）　土取り範囲の一番東側で検出された遺構である。1.1m×1.08mの不整形プランを呈する。床面も不整形で検出面からの深さは0.18m～0.3mを測る。東側に甕の底部片を逆位にして置かれていた。

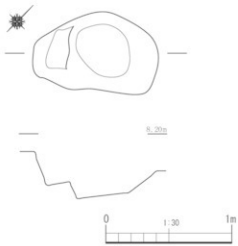
土坑184（第116図）　廃棄土坑82の北東部に切られているため全体の形状は不明で、現状では2.12m×1.72mの不整形なプランを呈する。検出面からの深さは0.24mを測る。北東側の壁面の地山が明確に検出されず埋め立て土が続くような状況が見受けられた。さらに廃棄土坑82



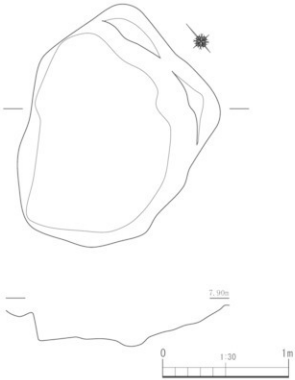
第111図　渋谷氏敷地内埋め立て土出土土器、木製品実測図（S＝1/2・1/4）



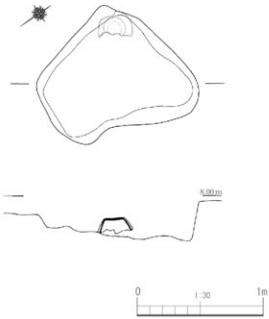
第112図　渋谷氏敷地内埋め立て土出土木製品、金属製品実測図（S＝1/2・1/4）



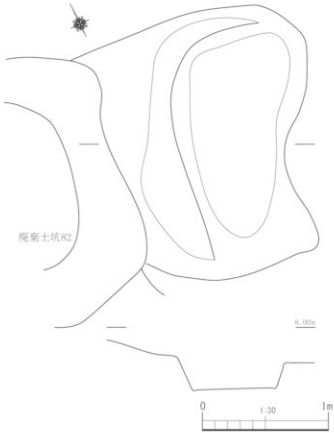
第113図　渋谷氏敷地内埋め立て範囲下位
検出土坑173実測図（S=1／30）



第114図　渋谷氏敷地内埋め立て範囲
下位検出土坑177実測図（S=1／30）

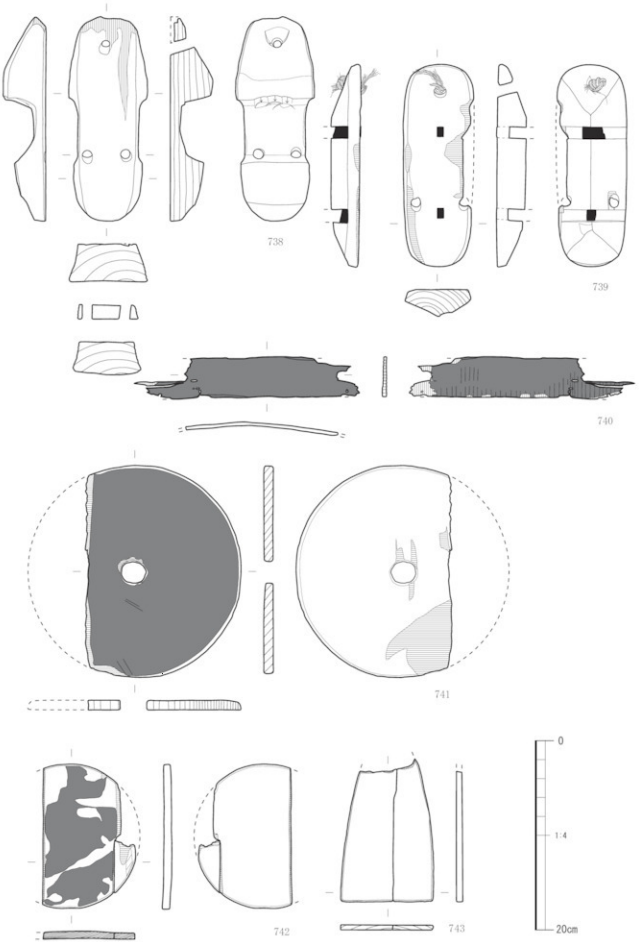


第115図　渋谷氏敷地内埋め立て範囲
下位検出土坑178実測図（S=1／30）

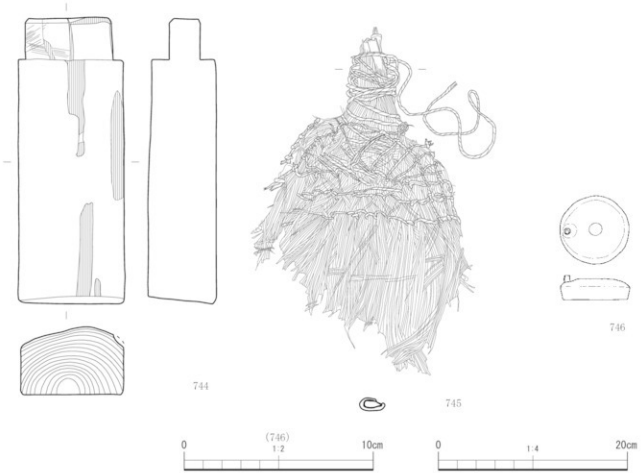


第116図　渋谷氏敷地内埋め立て範囲
下位検出土坑184実測図（S=1／30）

第117図　渋谷氏敷地内埋め立て範囲下位検出土坑173・177・178・184出土陶磁器、土器、土製品、瓦、木製品実測図
(S＝1/2・1/3・1/4)



第118図　渋谷氏敷地内埋め立て範囲下位検出土坑184出土木製品実測図（S＝1/4）



第119図　渋谷氏敷地内埋め立て範囲下位検出土坑184出土木製品、金属製品実測図（S＝1/2・1/4）

にも切られており、埋土中からは多量の遺物が出土したものの（図版 11 を参照）、廃棄土坑 82 の遺物や埋め立て土内の遺物が混入している可能性が考えられる。

第５項　埋め立て土下位の遺構から出土した遺物について

728 は土坑 178 に逆位に据えられていた甕である。729 ～ 731 は土坑 184 から出土した陶磁器である。730 は柿右衛門窯の白磁の脚付皿である。731 は関西系の土瓶である。732 は土坑 173 から出土した瓦質の植木鉢で外面に線刻で模様が見られる。733・734 は土坑 184 の出土遺物である。733 は秉燭である。

735 は土坑 177 から出土した木札で表に「○○○○衛門様　○（改行）渋谷宇衛門様　○（改行）　五月十五日　印」という墨書が見られ、裏面に魚の絵が描かれている。736 ～ 745 は土坑 184 から出土した木製品である。736 は「新納八郎（改行）渋谷直」という墨書が見られる。737 は表には「拾壱文（改行）○文」とあり、裏にも墨書が見られるが判別できなかった。738 は丸型の一木下駄で、739 は丸型の差し歯下駄である。739 は鼻緒が一部残存していた。740 は曲げ物の一部で、漆が塗布されている。741 は真ん中に穴のある丸板である。745 は箒である。

746 は土坑 184 から出土した銅製の水滴である。